

## 和仏法律学校講義録

荒井, 賢太郎 / 栗津, 清亮 / 吾孫子, 勝 / 仁井田, 益太郎  
/ 和仁, 貞吉 / 古賀, 廉造 / 鶴見, 守義 / 松本, 烝治 / 遠  
藤, 忠次 / 下村, 宏

---

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-14

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

51

(発行年 / Year)

1902-05-25

明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可 每月一圓  
明治三十五年五月二十五日發行

三十五年度 第二學年

# 和佛法律學校講義錄

第四拾號

和佛法律學校發行

第二學年第十四號目次

民法債權第一章(自二二八)	法學士荒井賢太郎
民法債權 自第二章第二節(自五七)	法學士善孫子勝
民法債權 至第十四節(自六四)	法學士和仁貞吉
商法會社(自六五)	法學士松本 丞治
商法商行爲 自第一章(自五七)	法學士粟津清亮
商法商行爲 至第九章(自六四)	法學士古賀廉造
商法商行爲 第十章(自七三)	法學博士仁井田益太郎
刑法各論(自四九)	法學士遠藤忠次
民事訴訟法第一編(自二〇〇)	法學士鶴見守義
民事訴訟法第二編(自二八一)	法學士下村 宏
刑事訴訟法(自二四三)	
財政學(自三四七)	

○數商ノ私印盗用○官警ヲ爲サシノスシテ參考ノ爲メニ訊問スルコト  
ヲ得ル者ノ供述ノ效力○校友會東京支部臨時總會

0.95  
1932

務者ノ一人ニ對スル時效中斷ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス然レトモ連帶保證ノ場合ニハ主タル債務者ニ對スル時效ノ中斷ハ依然保證人ニ對シテモ其效力ヲ生スルモノトス(四)普通ノ連帶債務ノ場合ニハ債務者一人ノ過失ハ他ノ債務者ニ對シテハ何等ノ影響ヲ生セス故ニ若シ債務者ノ一人カ自己ノ過失ニ因リ債務ノ目的物ヲ毀損シテ履行不能ニ至ラシメタル場合ノ如キハ之ニ對スル損害賠償ハ其債務者カ獨リ其責ニ任ス然レトモ連帶保證ノ場合ニハ保證人ハ普通第四百四十七條ニ依リ主タル債務ニ從タルモノヲ併セテ保證スルモノナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ其損害賠償ノ履行マテモ併セテ保證セラルモノト謂ハサルヘカラス

第三 保證ノ消滅

保證債務ノ消滅ハ保證ノ性質ヨリシテ其消滅ノ場合ヲ三ニ分ツコトヲ得即チ左ノ如シ

第一 保證契約ハ保證人ト債權者トノ間ニ於ケル獨立ノ契約ナリ故ニ總テノ債務ノ消滅ノ原因ニ因リ保證債務モ消滅ス即チ辨濟更改等ニ因リ消滅スルハ

民法債權 多數當事者ノ債權

0.90  
1902  
2-1-14

第二學年第十四編目次

民法債權第一編(一三三)	法學士 荒井 實一
民法債權 自第二編第二節(一五七)	法學士 藤原 子
商法 會社(一七三)	法學士 和 仁
商法商行為 自第一章(一七五)	法學士 松 本
商法商行為 至第九章(一八七)	法學士 栗 津
刑法 各論(一九七)	法學士 古 賀
民事訴訟法第一編(二〇〇)	法學士 仁 井田
民事訴訟法第二編(二一八)	法學士 遠 藤
刑事訴訟法(二四〇)	法學士 藤 花
財政學(二四七)	法學士 下 村

編輯 〇版圖ノ及印費用〇宣費ヲ爲ナシニシテ學界ノ爲ニ廉價ニシテ  
ヲ得ル所ノ利益ノ效力〇授及會費更其便宜ニ爲ス

務者ノ一人ニ對スル時効中斷ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生セス然レトモ連帶保證ノ場合ニハ主タル債務者ニ對スル時効ノ中斷ハ依然保證人ニ對シテモ其效力ヲ生スルモノトス四普通ノ連帶債務ノ場合ニハ債務者一人ノ過失ハ他ノ債務者ニ對シテハ何等ノ影響ヲ生セス故ニ若シ債務者ノ一人カ自己ノ過失ニ因リ債務ノ目的物ヲ毀損シテ履行不能ニ至ラシメタル場合ノ如キハ之ニ對スル損害賠償ハ其債務者カ獨リ其責ニ任ス然レトモ連帶保證ノ場合ニハ保證人ハ普通第四百四十七條ニ依リ主タル債務ニ從タルモノヲ併セテ保證スルモノナルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ其損害賠償ノ履行マテモ併セテ保證セラルモノト謂ハサルヘカラス

第三 保證ノ消滅 保證人マモ其消滅時効ヲ起シテハ保證債務ノ消滅ハ保證ノ性質ヨリシテ其消滅ノ場合ヲ三ニ分ツヨトヲ得即チ左ノ如シキニ消滅時効起シテハ保證債務ノ消滅ス即チ消滅ス即チ消滅スルハ

第一 保證契約ハ保證人ト債權者トノ間ニ於ケル獨立ノ契約ナリ故ニ總テノ債務ノ消滅ノ原因ニ因リ保證債務モ消滅ス即チ消滅ス即チ消滅スルハ

民法債權 多數債務者ノ債權

普通ノ債務ト異ナルコトナシ  
 第二 保證債務ハ從タル債務ノ性質ヲ有ス其結果トシテ主タル債務ヲ消滅シタルトキニハ保證債務モ當然消滅ス  
 第三 保證債務ニ特別ナル原因ニ因リ消滅ス即チ第五百四條ニ規定シタル擔保物ノ喪失若クハ減少ハ保證人ヲシテ其保證債務ヲ免レシム

### 第四節 債權ノ讓渡

第一 通則  
 債權ハ原則トシテ之ヲ讓渡スコトヲ得古代ニ於テハ債權ノ讓渡ヲ禁シタル國アリシモ現今ニ於テハ財產權ノ讓渡ハ經濟上最モ必要ナルヲ以テ各國法律ニ於テ皆之ヲ認メタリ唯例外トシテ債權ノ性質上讓渡スコトヲ得サルモノハ之ヲ讓渡ヲ認メス例ヘハ身分ニ附著セル權利ハ或特種ノ債權者ニ限リテ有スル權利ナルヲ以テ之ヲ他ニ讓渡スコトヲ許サス扶養ヲ受タル權利ノ如キ即チ是ナリ右ノ場合ヲ除キテハ債權ハ一般ニ讓渡スコトヲ得ルヲ原則トセリ但若シ



當事者カ反對ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニハ其意思表示ニ從フヘキモノトシテ元來債權ノ讓渡ハ經濟上ノ融通ヲ助ケル效力アルヲ以テ之ヲ許シタルモノナルモ若シ當事者カ其讓渡ヲ好マサル場合ニ於テハ強テ其意思ニ反シテマテ讓渡サシムルノ必要ナキヲ以テ法律ハ當事者ノ反對ノ意思ヲ表示スルコトヲ許セリ然レトモ此場合ニ於テモ債權ハ一般ニ讓渡スコトヲ得ルヲ原則トセルカ故ニ特ニ當事者間ニ反對ノ意思表示アルモ第三者カ之ヲ知ラザル以上ハ一般ノ原則ニ從ヒ第三者ハ正當ニ讓渡アリタルモノト見ルノ外ナキヲ以テ此反對ノ意思表示ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス債權ノ讓渡アリタルトキハ特別ノ意思表示ナキ限ハ其債權ニ附帶セル所ノ擔保權等モ移轉セラルタリトスルヲ普通トス  
 債權ノ讓渡ハ當事者間ニ於テハ意思表示ノヨリ以テ其效力ヲ生スルモノトスルモ第三者ニ對シテ讓渡ノ效力ヲ對抗セントスルニハ第四百六十七條以下ノ規定ニ從ヒ特別ノ行為ヲ必要トス  
 債權ノ讓渡ハ普通財產權ヲ讓渡スト同一ノ法律行為ニ依リ讓渡スコトヲ得即

ヲ賣賈贈與等ニ依リテ讓渡スルコトヲ得ルモノトス

第二 指名債權ノ讓渡

民法ハ債權ヲ分テテ三トセリ指名債權指圖債權及ヒ無記名債權是ナリ指名債權トハ債權者ノ豫メ指名セラレタルモノヲ謂フ普通ニ稱スル所ノ債權ハ即チ指名債權ナリ指圖債權トハ債權者若クハ債權者ノ指圖人ニ對シテ履行スル所ノ債務ニ對スルモノヲ謂フ無記名債權トハ債權者ノ豫メ確定セザルモノヲ謂フ此三種ノ債權ハ其債權讓渡ノ效力ヲ第三者ニ對抗セシムル點ニ付テ各其條件ヲ異ニセリ指名債權ノ讓渡ノ效力ヲ債務者其他ノ第三者ニ對抗セシメントスルニハ二箇ノ條件中何レカ一ヲ行フコトヲ必要トス即チ債權讓渡ヲ債務者ニ通知スルカ若クハ債務者ノ承諾ヲ得ルコトヲ必要トス此事ハ恰モ動產讓渡ノ效力ヲ第三者ニ對シテ生ゼシムルニハ其物ノ引渡ヲ必要トシ不動產讓渡ノ效力ヲ第三者ニ對抗セントスルニハ之カ登記ヲ必要トスルト同シテ當事者ノ意思表示以外ニ特別ノ行為ヲ必要トセルモノナリ元來債務者ハ讓渡人ナル原債權者ニ對シテ債務ヲ負擔セルモノナレバ以テ其債權者ノ交代セルコトハ債

務者カ通知ヲ受ケ若クハ之ヲ承諾スルニ非サル限ハ其知ラサル所ナレバ以テ債務者ヲ拘束スル效力ナキハ當然ノコトナリ故ニ若シ債務者カ通知ヲ受ケ若クハ承諾ヲ爲ササル限ハ經合當事者間ニ於テ債權讓渡成立スルモ債務者ハ尙ホ原債權者ニ對シテ有效ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルモノトス債權讓渡ノ對前債務者以外ノ第三者ニ對シ讓渡ノ效力ヲ對抗セントセハ右ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル證書ヲ以テスルヲ要ス(第四六七條第二項)債務者以外ノ第三者ニ對シテハ債權讓渡カ前後何レノ日ニ在リタルカハ最モ重大ナル利害ノ關係ヲ有スルモノトス例ヘハ債權者カ甲乙兩人ニ對シテ讓渡ノ行為ヲ爲シタルトキニ於テハ甲乙兩人互ニ其讓渡ノ效力ヲ對抗セントセハ各自己ノ讓渡カ最先ニ通知ヲ受ケ若クハ承諾ヲ得タルモノタルコトヲ證セサルヘカラス其通知若クハ承諾ノ前後ニ依リ其權利ノ運命ノ定マレモノナレバ故ニ其日附ニ付テハ後日詐欺ヲ容ルノ餘地ナカラシムル爲メ最モ正確ニシテ動カスヘカラサルモノタルコトヲ必要トス是レ法律カ特ニ確定日附アル證書ヲ以テスルコトヲ必要ト爲シタル所以ナリ確定日附ノ事ハ民法施行法第四條以下ニ規定シアリ

債權ノ讓渡ヲ債務者其他ノ第三者ニ對抗セントスルニハ通知若クハ承諾ヲ必要トス此通知ト承諾トハ其效力ニ於テ差異アリ讓渡人カ讓渡ノ通知ヲ爲シタルニ止マルトキハ債務者ハ其通知ヲ受ケルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得何人モ自己ノ有スルヨリ多クノ權利ヲ讓渡スコトヲ得ナルカ故ニ若シ讓渡ヲレタル債權ニシテ元來取消シ得ヘキ瑕疵アル債權ナレハ債務者ハ讓受人ニ對シテモ此取消權ヲ對抗スルコトヲ得ルモノトス此ノ如ク讓渡以前ニ生シタル事由ヲ讓受人ニ對抗スルヲ得ルハ勿論縱令讓渡後ト雖モ苟モ讓渡ノ通知以前ニ生シタル事由ハ悉ク之ヲ讓受人ニ對抗スルコトヲ得例ヘハ債務者カ讓渡人即チ原債權者ヨリ債務ノ免除ヲ得タル如キ又ハ讓渡人トノ間ニ相殺ヲ爲シタル如キ苟モ讓渡ノ通知ヲ受ケル以前ニ生シタルモノナルトキハ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ルカ如シ是レ債權ノ讓渡ハ通知ヲ待チテ始メテ債務者ニ對抗スルコトヲ得ルモノナレハナリ債務者ノ承諾ニ付テハ若シ債務者カ異議ヲ留メタル場合ニハ其趣旨ニ從ヒ讓渡人ニ對抗シ得ヘキ事由ヲ讓受人ニ對抗スルコトヲ得然レトモ若シ債務者カ

何等ノ異議ヲ留メス單純ニ債權讓渡ヲ承諾ヲ爲シタルトキハ當テ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由ヲ有シタルコトアリトスルモノ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ許サス是レ債務者カ何等ノ異議ヲ留メスシテ承諾シタルハ其對抗ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做スカ故ナリ例ヘハ其債權カ取消シ得ヘキモノナルモ債務者カ單純ニ其讓渡ヲ承諾シタルトキハ讓受人ニ對シテハ其取消權ヲ對抗スルコトヲ得ス又債務者カ讓渡人ニ對シテ既ニ債務ノ履行ヲ終ヘタル場合ニ於テモ一旦單純ニ承諾シタル以上ハ是レ亦讓受人ニ對シテハ辨濟ノ事ヲ以テ對抗スルコトヲ許ササルナリ但此場合ニハ債務者カ債務ヲ消滅セシムル爲メニ讓渡人ニ拂渡シタルモノアルカ若クハ讓渡人ニ對シテ特ニ負擔シタル債務アルトキハ債務者ハ其拂渡シタルモノヲ取戻シ又其債務ヲ成立セタルモノト看做スコトヲ得何トナレハ之ヲ許ササルトキハ讓渡人ニ於テ不當ノ利得ヲ爲スニ至ルヲ以テナリ

第三節 指圖債權ノ讓渡

指圖債權トハ債權者若クハ債權者ノ指名シタル人ニ支拂フ所ノ債務ニ對スル

債權ヲ謂フ民法ハ原則トシテ普通ノ債權ニ對シテモ讓渡ノ自由ヲ認ムト雖モ指圖債權ニ至リテハ當事者間ニ初ヨリ債權ノ讓渡ヲ豫期シテ發生セル權利關係ナリ指圖債權ハ主トシテ商事取引ニ用ヒラルルモノナレトモ民事上ノ取引ニ於テモ指圖債權ヲ發行スルコトヲ得ルモノトス商事上ニ於テ著シキ指圖債權ノ例ハ手形、倉荷證券、船荷證券ノ如キ是ナリ此等ハ何レモ一定ノ金額若クハ或物品ヲ債權ノ目的トスルモノナリ指圖債權ヲ認ムル法律上ノ理由ハ畢竟取引ノ圓滑、貨物ノ移轉ヲ容易ナラシムル目的ニ在リ此ノ如ク指圖債權ハ流通ノ圓滑ヲ期スルカ爲メニ設ケラレタルモノナルヲ以テ形ノ上ニ於テ容易ニ債權ノ移轉ヲ表明スル所ノ證書ノ存在ヲ必要トス其證書ハ手形ノ如ク或一定ノ形式ヲ具備シテ始メテ效力ヲ有スルモノアリ或ハ必スシモ其形式ヲ要セザルモノアリト雖モ要スルニ證書ノ存在ヲ必要トスルモノニシテ指圖債權ノ讓渡トハ即チ其證書ノ移轉ヲ意味スルモノナリ固ヨリ當事者間ニ於テハ單ニ意思表示ノミヲ以テ債權ノ讓渡アルハ勿論ナルモ其債權讓渡ヲ債務者若クハ第三者ニ對シテ效力アラシメントスルニハ必ス其證書ニ依リテ行フヲ必要トス約言

スルハ指圖債權ノ行使ハ其證書ト相離ルヘカチテ成ラザルニテ其證書ハ普通指圖式ニ依リテ發行スル旨ヲ明記スルコトヲ要スルニ在リ隨チ其債權必ス此ノ如ク指圖債權ハ其目的債權ノ融通ヲ圓滑ニスルニ在リ隨チ其債權必ス證書ニ依リテ行使スルモノナリト云フニトヨリシテ指名債權ノ讓渡トモ間ニ差異ヲ生ス指名債權ノ讓渡ハ之ヲ債務者ニ通知シ若クハ債務者之ヲ承諾スルニ非ナレバ債務者其他ノ第三者ニ讓渡ノ效力ヲ對抗スルコトヲ得スト雖モ指圖債權ノ讓渡ハ其證書ニ讓渡ノ旨ヲ記載スルトキハ別チ何等ノ手續ヲ要セスシテ債務者及ヒ其他ノ第三者ニ讓渡ノ效力ヲ對抗スルコトヲ得共證書ニ讓渡ノ旨ヲ記載スルコトヲ要スルモ多數人ニ轉轉シテ最早裏面ニ讓渡ノ旨ヲ記載スルコトヲ名ケタルモノナレバ數人ニ轉轉シテ最早裏面ニ讓渡ノ旨ヲ記載スルコトヲ爲シテ讓渡ノ旨ヲ記載スルコトアリ裏書ハ普通ニ讓渡人、讓受人及ヒ讓渡人年月日並ニ讓渡ノ旨ヲ記載ス唯時トシテ讓渡人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載スル場合アリ之ヲ白地裏書若クハ無記名裏書ト稱ス其區別ハ商法手形編ニ於テ研究スル所ナラン指圖債權ハ必ス證書ト相待チテ行使セラルルモノナルニ



以テ證書ニ讓渡ノ旨裏書シアル以上ハ最早何人モ債權ヲ移轉ヲ認メ得ヘク且  
 債務者ハ初ヨリ債權ノ讓渡ヲ豫期シテ債務ヲ負擔シタルモノナルヲ以テ指名  
 債權ニ於ケルカ如ク特ニ債務者ニ通知シ若クハ其承諾ヲ要スルノ必要ナシ  
 次ニ指圖債權讓渡ノ效力ヲ指名債權ノ讓渡ト異ナルコトハ凡ソ何人モ自己ノ  
 有スルヨリ多クノ權利ヲ移轉スルコトヲ得ザルノ原則ヨリ指名債權ノ場合ニ  
 ハ若シ原債權ニ取消シ得ヘキ瑕疵アルトキハ讓受人ノ讓受ケタル債權モ亦其  
 瑕疵ノ附著セルモノナルヲ以テ債務者ハ原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事  
 由ヲ以テ讓受人ニモ對抗シ得ルヲ原則トス但第四百六十八條ニ於テ説明シタ  
 ル如ク債務者カ異議ヲ留メスシテ讓渡ノ承諾ヲ爲シタルトキハ原債權者ニ對  
 抗シ得ヘキ事由アルモ之ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得ストノ例外アルノ  
 ミ然ルモ指圖債權ノ場合ニ於テハ債務者ハ善意ノ讓受人ニ對シテハ唯其證書  
 ニ記載シタル事項及ヒ其性質ヨリ生スル結果ヲ除クノ外ハ縱令原債權者ニ對  
 抗スルコトヲ得ル事由アリト雖モ讓受人ニ向ヒテ之ヲ對抗スルコトヲ得ス故  
 ニ原債權者ニ對シテハ取消シ得ヘキ債權ト雖モ且第三者ノ手ニ移轉シタル

以上ハ最早之ニ對シテ取消權ヲ對抗スルコトヲ得ス是レ指圖債權ハ債權ノ行  
 使ト證書トハ必ス相離ルヘカラサルモノナルヲ以テ第三者ハ債權ノ範圍目的  
 等ヲ判明スルハ一ニ證書ニ依ルノ外ナク若シ證書以外ノ事項ヲモ尙ホ對抗ス  
 ルコトヲ得ルモノトスルトキハ何人モ安シテ債權ヲ讓受タルコトナク融通ノ  
 圓滑ヲ圖リテ指圖債權ヲ認メタル趣旨ヲ滅却スルニ至ルヘキヲ以テ證書ニ依  
 リテ判明スルコトヲ得ザル事項ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ許サザルコ  
 トト爲シタルナリ  
 以上ノ二點ハ指名債權ト指圖債權トノ著シク異ナル所ニシテ全ク指圖債權ニ  
 特別ナル性質ヨリ來ル結果ナリ  
 第四百六十九條ハ指圖債權ノ讓渡ヲ第三者ニ對抗シ得ヘキ條件ニ付テ規定セ  
 リ即チ其證書ニ讓渡ノ裏書ヲ爲シテ之ヲ讓受人ニ交付スルニ非ザレハ之ヲ以  
 テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ザルモノトス故ニ當事者間ニ於テ  
 ハ單ニ意思表示ノトヲ以テ債權ヲ移轉スルコトヲ得ルトモ債務者其他ノ第三  
 者ニ對抗スルニハ必ス本條ノ規定ニ依リテ證書ニ裏書ヲ爲サザルヘカラス

第四百七十條ハ指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ノ眞偽ヲ調査スルノ權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシト規定セリ指圖債權ハ元來流通ノ圓滑ヲ圖リテ發行セラルタルモノナルカ故ニ其債權カ何人ノ手ニ移轉タルカハ債務者ニ於テハ豫知スル能ハサル所ニシテ其所持人カ果シテ眞正ノ權利者ナルヤ又ハ其署名捺印カ果シテ眞正ナルヤ否ヤハ債務者ノ知ル能ハサル所ナリ然レモ若シ債務者ニシテ一之ヲ調査スルノ義務ヲ負フモノトスルトキハ債務者ハ容易ニ支拂ヲ執行ヲ爲スコト能ハス隨テ指圖債權ノ流通ハ之カ爲メ非常ニ澁滞スルコト爲ルニ至リ指圖式ヲ認メタル趣旨ニ反スルヲ以テ法律ハ債務者ニ之ヲ調査スル義務ナキコトト爲シタルナリ然レトモ債務者ハ其證書ノ所持人若クハ署名捺印ニ付テ疑アルモ之ヲ調査スル權利ナクシテ必ス支拂ヲ爲ササルヘカラストスレハ之カ爲メ眞正ノ權利者ノ利益ヲ害スルコトアルヲ以テ若シ疑アルトキハ債務者ニ之ヲ調査スルコトヲ得ル權利ヲ認メタリ但債務者ニ惡意又ハ重大ナル過失アルトキハ其辨濟ハ無効ナリトシ法律ハ惡意者ヲ保護セザルヲ以テ惡意アルトキハ債務者カ眞正ノ權利

者ニ非サルコトヲ知リテ支拂ヲ爲シタルトキハ其支拂ヲ無効トシ得ルハ同ヨリナリ又惡意ナキモ重大ナル過失換言シテ少シク注意スレハ容易ニ發見シ得ヘキ事項ニ付テ注意ヲ怠レル如キトキハ是レ亦其辨濟ヲ無効トスル例ヘシ其書カ連續セザル場合ニ支拂ヲ爲シタル如キ是ナリニシテ其書カ連續セザル場合ニ對シテ適用スル規定ナリ本條規定ノ債權者所持人指圖債權ニ非スシテ指名債權ノ性質ヲ有スルモノナルモ特ニ其證書所持人ニ辨濟スヘキ旨ヲ附記セルヲ以テ指圖債權ニ於ケルト同シク債務者ハ所持人ノ何人タルヤヲ判別スルコト難ク隨テ其所持人カ眞正ノ權利者ナルヤ否ヤ辨濟ヲ受クル權利ヲ有スルヤ否ヤハ知リ難キヲ以テ第四百七十條ヲ準用シテ其眞偽ヲ調査スルノ義務ナシトシタルナリ

第四百七十二條ハ前ニ述ヘタル指圖債權ノ債務者カ其讓受人ニ對シタルコトヲ得ル事項ニ付テ規定セリ(一)證書ニ記載シタル事項例ヘハ其債權ハ三箇月拂ナルトキハ其三箇月ノ期限前ニ支拂ヲ要求セラレタルトキハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ル如キ證書ニ記載セル事項例ヘシテ(二)證書ノ性質

買ヨリ當然生スル結果例ハ公債ノ利札ノ如キモノカ既ニ時効ニ繫リテ請求  
 權ノ消滅セル場合ニハ此事由ヲ對抗シテ支拂ヲ拒ムコトヲ得ヘタ又補荷證券  
 ノ如キハ貨錢ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ荷物ヲ受取ルコト能ハサルニ因リ此  
 ノ如キ場合ニハ貨錢ノ支拂ナキコトヲ事由トシテ荷物ノ引渡ヲ拒ムコトヲ得  
 ルカ如シ要スルニ證書ニ依リテ判明シ得ヘキ事由ノ外ハ原債權者ニ對抗スル  
 コトヲ得ル事由アルモ新債權者ニ對抗スルコトヲ得ザルナリ此理由ハ既ニ述  
 ヘタル所ナリ  
 第四節 無記名債權ノ消滅  
 無記名債權トハ債權者ヲ指定ナキ債權ヲ謂フ故ニ無記名債權ハ其證書ヲ所持  
 人ニ對シテ辨濟スル所ノモノナリ例ハ兌換銀行券無記名ノ公債證券鐵道乘  
 車券ノ如キハ皆無記名債權ノ種類ニ屬ス無記名債權ハ民法ハ之ヲ動産ト看做  
 セルヲ以テ其讓渡ノ效力ヲ第三者ニ對抗セシムルニハ一般ノ原則ニ從ヒ其證  
 書ノ引渡ヲ以テスルコトト爲ルモノナリ此無記名債權ニ對シ第四百七十二條  
 ノ準用スルノ理由ハ無記名債權ハ指圖債權ト同シク全ク證書ニ依リテ權利ヲ

行使スルモノナルヲ以テ其證書以外ノ事項ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトハ指  
 圖債權ト同一ノ理由ニ依リテ之ヲ認メザルカリ

第五節 債權ノ消滅

債權消滅ノ原因ハ之ヲ大別スレハ凡ソ三ト爲スコトヲ得第一ハ債權ノ性質  
 上當然生スル消滅ノ原因ニシテ即チ辨濟條件附債權ニ在リテハ條件ノ不成就  
 終身年金又ハ養料ヲ請求スル權利ニ在リテハ當事者ノ死亡ニ因リテ消滅ス此  
 ノ如キハ債權ノ性質上ヨリ自然ニ消滅スル原因ナリ第二ハ他ノ法律行為ノ爲  
 マニ債權ノ消滅スル場合ニシテ例ハ更改相殺免除ノ如キ之ニ屬ス第三ハ或  
 事實ノ發生ニ因リ債權消滅スル例ハ時効混同履行不能ノ如キ是ナリ民法ハ  
 此等ノ債權消滅原因中第五節ニ於テハ債權消滅ニ最モ普通ノ原因タル辨濟相  
 殺更改免除及ヒ混同ノ事ヲ規定セリ其他ノ消滅原因ハ或ハ總則ノ規定ニ據リ  
 或ハ各法律行為ノ條項ノ下ニ於テ特ニ之ヲ規定セリ故ニ債權ノ消滅原因トシ  
 テハ第五節ニ規定セル順序ニ依リ説明シ其他ハ各論ノ講義ニ讓ルコトトス

第一款 辨濟

第一條 債務人ハ債權人ニ對シテ其債權ノ消滅ニ關係スル事ヲ爲スルニ當リ  
 其債權ノ消滅ニ關係スル事ヲ爲スルニ當リ其債權人ニ對シテ其債權ノ消滅ニ關係スル事ヲ爲スルニ當リ  
 辨濟ノ事ハ舊民法ニ於テハ單純ノ辨濟、辨濟ノ充當辨濟ノ提供及ヒ代位辨濟ト  
 シテ各別ニ之ヲ規定セリ新民法ニ於テハ各別ニ掲ケスト雖モ條文ノ叙列上ヨリ  
 自然ニ此區別ヲ認ムルコトヲ得ルヲ以テ説明上便宜ノ爲メニ舊民法ノ區別  
 別ニ依リ説明セントスルニ當リ舊民法ノ區別別ニ依リ説明セントスルニ當リ  
 第一ノ普通ノ辨濟ノ事ハ舊民法ノ區別別ニ依リ説明セントスルニ當リ  
 辨濟トハ債務ノ本旨ニ從ヒテ義務ヲ履行スルコトヲ謂フ通俗ト辨濟ノ金銀  
 上ノ債務ノ履行ヲ稱スルモ法律上ニ於テ辨濟ナル語ハ總テノ債務ノ履行ヲ意  
 味スルモノナリ辨濟ハ債務ノ本旨ニ從フ義務ノ履行ナルヲ以テ辨濟ノ結果ハ  
 原則トシテ債權債務ノ關係ヲ消滅セシム即チ債權者ニ對シテハ債權ノ消滅ヲ  
 來シ債務者ニ對シテハ債務ノ消滅ヲ來ス但第三者カ辨濟ヲ爲ス場合ハ債務者  
 ニ對シテ尚ホ法律上債務關係ノ存續ヲ認ムル場合アリ此事ハ後ニ説明スヘ  
 シ此ノ如ク有效ナル辨濟ハ債權債務ノ關係ヲ消滅セシムルモノニシテ其辨濟

買主カ減額ノ請求若クハ契約ノ解除ト共ニ行使スヘキ損害賠償請求權ハ若シ  
 其權利行使ノ期間ヲ定メスルハ普通ノ時効ニ依リシムルモノトセバ證據溷滅  
 シテ足ラサル部分ノ割合ニ應ジテ減スヘキ代金ノ額ヲ知ル能ハス又契約當時  
 ニ於ケル買主ノ意思如何善意ナリシヤ又ハ惡意ナリシヤ一部ノ欠缺アルニ於  
 テハ買受ケケサルヘカリシヤヲ知ルヘカラサルニ至ルヲ以テ本法ハ買主ノ權利  
 行使ノ期間ヲ定メ以上ノ權利ハ買主カ其欠缺ノ事實ヲ知リタル時ヨリ一箇年  
 内ニ之ヲ行使スルヲ要スト定ム故ニ惡意ナル買主ニ付テハ契約當時ヨリ其期  
 間ヲ起算シ善意ナル買主ニ付テハ其事實ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス第五六  
 四條然レトモ右ノ期間ハ所謂豫定期間ニ屬シ法律カ公益ノ必要上ヨリ設ケタ  
 ル不變期間ナルヲ以テ當事者ハ合意ニ依リ之ヲ拋棄若クハ短縮スルコトヲ得  
 ヘキモ之ヲ伸長スルコトヲ得ヘカラス且右期間ハ時効ニ非サルコト前陳ノ如  
 クナルヲ以テ之ニ時効ノ中斷若クハ停止ニ關スル規定ヲ適用スル能ハサルノ  
 ミナラス其他尙ホ消滅時効ノ適用ヲ受ク詳言スレハ買主カ一部追奪ノ事實ヲ  
 普通ノ時効期間タル二十年ノ後ニ知リタル場合ニ於テハ第五百六十四條所定

ノ權利ヲ行フコト能ハサルニ至ルヘキヤ言テ埃タズニハ第五百六十四條ノ規定ニ  
 本法カ本條其他ノ場合ニ於テ追奪及ヒ瑕疵擔保ヨリ生スル買主ノ權利行使ヲ  
 期間ヲ定メタルニ拘ハラヌ全部追奪並ニ第五百六十七條ノ場合ニ於テ其規定  
 ナ設ケスシテ普通ノ時効ニ依リ二十年ノ經過ヲ待テテ其權利ノ消滅スヘキモ  
 ノト定メタル所以ハ此二ノ場合ニ於テハ契約ノ目的タル權利ノ全部カ他人ニ  
 屬スルコト(第五六二條若クハ之ヲ喪失シタルコト)第五六七條ニ基キ契約ノ全  
 部ヲ解除シ損害ノ賠償ヲ求ムルモノニシテ別ニ買主ノ權利ノ行使ニ付キ事實  
 ノ證明ノ困難ヲ理由トシテ特ニ行使ノ期間ヲ定ムルノ必要ナクレハナリ其  
 第三ノ數量不足並ニ一部滅失ノ場合ニ數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナ  
 ル場合ハ率ロ瑕疵擔保ニ屬シ第五百七十條ヲ適用スヘク物ノ一部カ契約ノ當  
 時既ニ滅失シタル場合ハ初ヨリ履行不能ニ屬シ契約ノ通則ニ依ルヘキモノナ  
 リト雖モ此等ノ場合ニ於テ買主ノ被ルヘキ損害ハ一部追奪ノ場合ト其情況ヲ  
 同シタスルヲ以テ本法ハ便宜上之ヲ一部追奪ノ場合ニ準シテ之ニ對スル賣主  
 ノ責任ヲ定ム

(甲) 善意ナル買主ノ權利 善意ナル買主ハ契約當然ノ效力トシテ不足セル數  
 量又ハ滅失セル部分ノ補足ヲ求メ得ルヤ勿論ナリト雖モ尙ホ第五百六十三條  
 並ニ第五百六十四條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ目的物ノ如何ナル物タルト全部滅  
 失ノ場合ヲ除キ其不足滅失ノ程度ノ如何ヲ問ハス苟モ其欠缺カ契約締結當時  
 ニ存スル限(契約締結後ノ滅失ハ第五百三十四條乃至第五百三十六條ニ依リ  
 其責任ヲ定ム)不足セル數量若クハ滅失セル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額ヲ  
 求ムルコトヲ得ヘク若シ殘存セル數量若クハ部分ノミニテハ買主ニ於テ之ヲ  
 買受ケナリシナラント認ムヘキ場合ニ於テハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘク右  
 何レノ場合ニ於テモ尙ホ損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得而シテ其權  
 利ハ數量ノ不足若クハ一部ノ滅失ノ事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ之ヲ行使  
 スルコトヲ要ス(第五六五條)

(乙) 惡意ナル買主ノ權利 買主カ惡意ナル場合ニ於テハ數量ノ不足若クハ一  
 部ノ滅失ニ基キ賣主ニ對シ何等ノ權利ヲ取得スルコトナシ蓋シ此ノ如キ場合  
 ニ於テハ賣買ノ目的物ハ殘存セル數量若クハ一部ノ滅失シタル殘部ニシテ買

主ハ之ニ對シテ代金ヲ支拂ヒタルモノト看ルヘク隨テ欠缺ニ因リ毫モ損害受ケタルコトナキモノト認ムヘキヲ以テナリ

第四 買賣ノ目的タル權利ニ負擔アル場合並ニ目的物上ニ存スヘキ權利ノ存セサル場合

(甲) 買賣ノ目的物カ地上權永小作權地役權留置權又ハ質權ノ目的タル場合ニ於テハ賣主ハ理論上ハ一部追奪ノ責任ヲ負擔スヘキモノニシテ隨テ之ニ關スル規定ニ依ルヘキモノナリト雖モ其負擔ノ存スル割合ニ應シテ減額スヘキ代金ノ額ヲ評定スルコトノ容易ナラサルニ依リ唯或場合ニ限り契約ヲ解除ヲ爲スコトヲ許シ又惡意ノ買主ニ代金減額ヲ求ムル等ノ權利ヲ許與セサルノ點ニ於テ一部追奪ノ規定ニ依ル能ハサルカ故ニ別ニ本條ノ規定ヲ設ケタルモ以テシテ善意ナル買主ニ對シテハ此等ノ負擔ノ存在ニ因リ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スル能ハサル場合ニ於テハ契約ヲ解除シ其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコトヲ許シタリ(第五六六條第一項)而シテ本條カ地上權永小作權地役權留置權又ハ質權ノ存スル場合ニ於テハ此等ノ權利カ買賣ノ目的タル物

ノ全部ノ上ニ存スルト其一部ノ上ニ存スルト又此等ノ權利ノ存續期間ノ長短ヲ問ハス又其權利カ實際ニ行使セラレタルト否トヲ問ハス善意ノ買主ニ對シテ一定ノ權利ヲ與フル所以ハ要スルニ此等ノ權利タル物ノ占有利用ヲ妨ケ其買賣契約ヲ爲シタル實益ヲ收ムル能ハサラシムルニ由ル詳言スレバ地上權永小作權ハ物ノ占有ト使用トヲ妨ケ留置權並ニ質權ハ物ノ占有ヲ妨タルヲ以テナリ唯地役權ハ全然買主ノ占有使用收益ヲ妨タルモノニ非サルヲ以テ或ハ不表見ノ地役ノ如キ買主カ容易ニ知リ得タル場合ニ限り賣主ヲシテ其擔保ノ責ニ任セシムル法制ナキニ非ス(舊民法財産取得編佛地雖モ本法ハ公平ヲ旨トシテ地役ノ種類ノ表見ト否トヲ問ハス賣主ヲシテ一般ニ其責ニ任セシムヘキモノト定ム)

一部追奪即チ權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ之ヲ取得シテ買主ニ移轉スル能ハサル場合ニ於テハ當事者ノ意思ハ賣主先ツ之ヲ取得シテ買主ニ移轉セントスルニ在ルヲ以テ惡意ノ買主ニモ代金減額ノ請求權ヲ與フルノ必要アリト雖モ本條所定ノ權利カ目的物上ニ存スルコトヲ知リテ買受ケタル者ハ

其欠缺アルニ相當スル廉價ニテ買受ケタルモノト認ムヘキヲ以テ別ニ之カ保護ノ規定ヲ設ケス

(乙) 買賣ノ目的タル不動産ノ上ニ登記シタル賃借權ノ存スル場合ニ於テハ該賃借權ハ登記ニ依リ一般第三者ニ對抗シ得ルノ結果(第六〇五條買主モ之ヲ遵守セサルヘカラサルヲ以テ本法ハ之ヲ以テ賣主ノ擔保責任ノ原因ト認メ置ニ賣主カ買主ノ目的タル不動産上ニ地役權ノ存スルコトヲ確保シタル場合ニ於テ其地役ノ存セザリシ場合ニ於ケル賣主ノ責任ニ關シ右ノ規定ヲ準用ス

以上ノ契約解除並ニ損害賠償ノ請求ニ關シテハ一部追奪ニ於ケルト同一ノ理由ニ依リ之カ行使ニ付キ一年ノ期間ヲ定ム

第五 買賣ノ目的タル不動産上ニ先取特權又ハ抵當權ノ存スル場合ニ先取特權又ハ抵當權ハ前條所定ノ權利ト異ナリ其權利ノ存スル賣主ノ目的物ヲ買主ニ於テ占有スルコトヲ妨ケス且債務者カ債務ヲ辨濟スルニ因リ消滅スヘキ權利ナルヲ以テ法律ハ單ニ此等ノ權利カ存在ストノ理由ニ基キ買主ニ何等ノ權利ヲ付與セスト雖モ買主カ此等ノ權利ノ行使ニ遇ヒ目的物ノ所有權ヲ失ヒタ

ルトキハ買主カ其買受ノ當時此等ノ權利ノ存在ヲ知りタルト否トニ論ナク契約ヲ解除シ向ホ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得セシム又買主ニ於テ追奪ヲ免レシカ爲メニ債權者ニ對シテ賣主ノ債務ノ全部ヲ辨濟スルカ又ハ法律ノ規定ニ從ヒ抵當權ノ消除ヲ爲シタルトキハ(第三四一條、第三七七條、第三七八條買主ハ其不動産ヲ保有スルコトヲ得ルカ故ニ契約ヲ解除スルノ必要ナシト雖モ之カ爲メニ支出シタル費用ノ償還ヲ求メ向ホ損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得セシム

第六 強制競賣ニ於ケル擔保義務 強制競賣ニ於テハ何人カ賣主ニシテ何人カ買主ニ對シテ擔保義務ヲ負擔スヘキヤニ付テハ學者間論議ナキニ非ス(一)或ハ債權者ヲ以テ賣主トス蓋シ強制競賣ハ債權者ノ意思如何ニ關係ナク其債權者ニ於テ競賣ノ申立ヲ爲シ不動産ハ之ヲ裁判所ニ申出テ競賣シ動産ハ之ヲ執達吏ニ委任シテ競賣スルモノナルヲ以テ債務者ハ之ニ干與スル所ナク賣主ハ寧ロ債權者ナリト云フナリ此說ニ依レハ債務者ハ賣主ニ非ナルヲ以テ之ヲシテ擔保ノ責ニ任セシメヌ而モ債權者ハ他人ノ物ニ關シテ情態ヲ明カニセズ

ルヲ常トスルヲ以テ又之ヲシテ擔保ノ責ニ任セシムルコトナシ(二)或ハ債務者ヲ以テ賣主トス詳言スレハ債務者ハ債權者ニ對シ其財產ヲ以テ債務ノ辨濟ニ充テヘキ義務アルモノニシテ債權者ハ法律ノ力ニ依リ債務者ニ代リテ賣主申立ヲ爲スモノナリ即チ一種ノ法律上ノ代理權ヲ行使スルモノナルヲ以テ其賣主ハ債務者ナリト謂フヘク隨テ債務者ハ擔保ノ義務ヲ負擔スヘキモノナリト云フナリ本法ハ第二ノ主義ニ從ヒ原則トシテ債務者ニ擔保ノ義務ヲ負擔セシメ脫藩人ヲシテ債務者ニ對シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ代金ノ減額ヲ求ムルコトヲ得セシム(第五六八條第一項)然レトモ通常ノ賣買ニ於ケルト相異ナル點左ノ如シ(一)買主ノ目的タル物又ハ權利ニ瑕疵アルニ因リ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ通常ノ場合ニ於テハ賣主タル債務者ヲシテ其實ニ任セシムヘキモノナリト雖モ強制賣買ノ場合ニ於テハ債務者若クハ債權者ヲシテ必ス之ヲ負擔セシムルハ賤價ニ過タルノ嫌ナキニ非サルヲ以テ本法ハ原則トシテ何人ニ對シテモ其賠償ヲ求ムルコトヲ得スト定メ唯過失者ニ對シテノミ之ヲ求ムルコトヲ得

設立ノ第一著手段トセリ發起トハ會社カ成立スルニ至ルカヲ準備行為ヲ謂フ發起ノ任ニ當リ會社ノ設立ヲ以テ職務トスル者ヲ發起人ト謂フ株式會社ヲ設立スルニハ七人以上ヲ發起人アルコトヲ要ス法律カ發起人ノ最少數ヲ定メタル所以ノモノハ會社ノ起業設計ニ熟識ヲ盡ケ輕舉暴動ノ結果世人ヲ誤マシトシテ豫防シ且世人ノ信用ヲ博シ以テ會社ノ設立ヲ容易ナラシメンカ爲メナリ(第一一九條)發起人ノ數並立發起人ノ姓名並發起人ノ住所並發起人ノ定款ヲ作リ之ニ重要事項ヲ記載シ署名セサルヘカラズ定款ニ記載スヘキ事項ニ絕對ノ事項ト相對ノ事項トスルニ對シテ絕對ノ事項ハ必ず定款ニ記載スルコトヲ要シ之ヲ記載セザリシトキハ定款ハ效力ヲ有セス之ニ反對ノ事項ハ必ず定款ニ記載スルコトヲ要ス定款ニ記載スルコトヲ要スルモノニ非ス唯之ヲ記載スルトキハ定款トシテノ效力ヲ生ス絕對ノ事項ハ商法第百二十條ニ揭ケタリ即チ左ノ如シ

一 宗旨  
二 商號  
三 資本ノ總額



四 一株ノ金額

五 取締役カ有スヘキ株式ノ數

六 本店及ヒ支店ノ所在地

七 會社カ公告ヲ爲ス方法專章ノ商法第二百三十條ニ據リテ定ムル事

八 發起人ノ氏名住所

發起人カ以上ノ事項中其一ヲ定款ニ記載セザリシトキハ定款ハ無効トシテ之ニ依リテ會社成立スルコトナシト雖モ第五乃至第七ノ事項ハ比較的重要ナル事項ニ非サルヲ以テ發起人ノ定款ニ記載セザルモ之カ爲テ當然定款ヲ無効トスルコトナク法律ハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ許シタリ此創立總會又ハ株主總會ノ決議ハ定款ノ變更ニ要スルト同一ノ方法ニ從フコトヲ要ス(第一二一條第一三一條第二項同時設立ノ場合ニハ株主總會ニ於テ補足シ漸次設立ノ場合ニハ創立總會ニ於テ補足スヘキモノナリ本店支店並ニ會社カ公告ヲ爲ス方法ハ登記スヘキ絕對的事項ニ屬スルカ故ニ此二ツノ事項ハ登記申請前ニ於テ補足スルコトヲ要ス此等ノ手續ニ依リ補足ヲ爲サズ

シトキハ定款ハ無効トシテ會社ハ成立セス(第一二〇條第一二一條)

定款ニ記載スル相對的事項ハ第二百二十二條ニ掲ケラルル如ク左ノ如シ

一 存立時期又ハ解散ノ事由

二 株式ノ額面以上ノ發行

三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名

四 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名其財産ノ種類價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數

五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

存立時期及ヒ解散ノ事由ハ必ズ之ヲ定ムルコトヲ要スルモノニ非サルモノ之ヲ定ムタルトキハ定款ニ記載キシムルノ必要アリ株式ノ額面以下ノ價額ヲ以テ發行スルコトヲ許サス(第一二八條第一項)株式會社ハ資本團體ニシテ會社ノ資本ハ會社ノ事業ト密接ノ關係ヲ有ス然ルニ株式ノ額面以下ニ發行スルコトヲ許ストキハ株金ノ現實ノ額ハ資本ノ總額ニ滿タズシテ事業ヲ經營スル能ハサルノミナラス之カ爲メ會社債權者ノ利益ヲ害ス所虞アリ之ニ反シ額面以上

ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スルトキハ、株金ニ總額ハ資本ノ總額ニ超過スル事モ其超過スル部分ハ之ヲ積立準備金ト爲スコトヲ得ヘク且會社債權者ニ對シ之カ爲メ何等ノ危害ヲ及ホスコトナラ故ニ株式ノ額面以上ノ發行ハ之ヲ許スモ弊害ナシ唯之ヲ定メタルトキハ定款ニ記載スルコトヲ要ス發起人ハ會社ヲ設立ニ付テ功勞アル者ナリ故ニ發起人ニ特別ノ利益ヲ與ル可ト實際ニ於テ廣ク行ハルル所ナリ然レトモ之カ爲メ不當ノ利益ヲ貪リ種種弊害ヲ生スルコト實際ニ免レサル所ナリ是ヲ以テ法律ハ發起人ニ特別ノ利益ヲ與ヘント欲スルトキハ其利益ノ種類及ヒ其利益ヲ受クヘキ者ノ氏名ヲ定款ニ記載スヘキコトヲ命ジ以テ之ヨリ生スル弊害ヲ豫防スルノ方法ヲ講じ且株式會社ハ社員ハ金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲スニト普通大衆ト雖モ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的トスルヲ禁スルノ理由ナシ唯株式會社ハ株式ヲ以テ基礎トシ株主ノ權利義務ハ株式ヲ以テ標準トスルカ故ニ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アルトキハ其者ノ有スヘキ株式ノ數ヲ明カニ定ムル必要アリ然レトモ其出資ニ對シテ過分メ株式ヲ與フルトキハ他ノ株主ノ利益ヲ害スルノミナ

ラス資本ト其實額トノ間ニ差異ヲ生シ債權者ノ利益ヲ害スルニ至ル是レ法律カ其出資ノ目的タル財産ノ種類價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ定メ定款ニ記載スヘキコトヲ命シタル所以ナリ設立ニ要シタル費用ハ會社ヲシテ負擔セシムルコトヲ得又發起人ノ功勞ニ對シ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ得然レトモ此設立費用及ヒ報酬ニ關シ發起人ハ不當ニ多額ノ費用又ハ報酬ヲ要求スル弊害アリ故ニ豫メ設立費用及ヒ報酬ノ額ヲ定メテ之ヲ定款ニ記載セシメ以テ其弊害ヲ防止セサルヘカラス以上ニ説明シタル發起人カ受クヘキ特別ノ利益金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ受クヘキ株式ノ數、設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額ヲ定款ニ記載セシムルトキハ能ク會社ノ設立ニ伴フ弊害ヲ豫防スルコトヲ得ル所以ナリモハ株式ノ申込ヲ爲シントスル者ハ株式申込證ニ依リテ此等ノ事項ヲ知ルコトヲ得ルヲ以テ若シ其不當ナルヲ發見スルトキハ申込ヲ爲ササルコトヲ得ヘク又既ニ申込ヲ爲シ及後ニ於テ是レ創立總會ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得ルカ故ナリ(第一二六條第一三五條)ニ定款ノ作成ニ關シテ一言スヘキモノアリ各名會社及ヒ合資會社ハ定款ノ作成

ニ因リテ直チニ成立ス然レニ株式會社ハ定款ヲ作成スルモ直チニ成立スルコトナシ是レ如何ナル理由ニ依ルモノナルカ惟フニ合名會社及ヒ合資會社ニ在リテハ會社ノ存在ニ必要ナル條件即チ會社ノ目的商號社員ノ氏名住所營業所社員ノ出資ハ定款ニ依リテニ定シ他ニ之ニ加フヘキモノナシ是レ此ニ會社カ定款ノ作成ニ因リテ直チニ成立スル所以ナリ之ニ反シ株式會社ニ在リテハ定款ヲ作成スルノミニテハ未タ會社ノ存立要件完備セズ何ソキ社員ノ一定セザルコト是ナリ會社ハ社團ナルカ故ニ其成立ニハ社員ノ確定スルコトヲ要ス株式會社ノ社員ハ株式ノ引受ニ依リテ定マル是レ株式會社カ定款作成ノ外株式ノ引受ヲ要スル所以ナリ漸次設立ノ場合ニ於テ此ニ要件ノ外ニ尙ホ創立總會ノ決議ヲ必要トスルハ發起人ノ行爲ヲ監督シ且會社ノ基礎ヲ鞏固ニスル實際ノ理由ニ出ツルモノニシテ其決議ハ理論上株式會社ノ成立ニ必要ナルモノニ非ス

### 第二節 同時設立

株式會社ハ多額ノ資本ヲ有シ其社員モ亦多數ナルヲ普通トス隨テ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケ發起人ノミニテ會社ヲ組織スルコトハ多ク見ケル所ナレトモ發起人ノ數多ク且資産ニ富ムトキハ他人ノ力ヲ藉ルコトヲ要セスシテ自ら株式ノ總數ヲ引受ケ會社ヲ組織スルコトアリ斯ル場合ニ其株式ノ引受ト同時ニ會社ヲシテ成立セシムルコト至當ナリ舊商法ハ明カニ此同時設立ヲ認メザリシト雖モ新商法ハ第百二十三條ニ於テ明カニ之ヲ認メタリ此場合ニ會社カ外部ニ對シ其設立ヲ主張シ得ルニ至ルマテニ爲スヘキ手續左ノ如シキ事ヲ要ス

- 一 株式總數ノ引受
- 二 取締役及ヒ監査役ノ選任
- 三 第一回ノ株金ノ拂込
- 四 檢査役ノ選任及ヒ其報告
- 五 登記

第一 株式總數ノ引受ハ發起人等ノ共同ノ行爲ニ依リテ爲スル所ナリ發起人等ノ共同ノ行爲ニ依リテ爲スル所ナリ發起人等ノ共同ノ行爲ニ依リテ爲スル所ナリ發起人等ノ共同ノ行爲ニ依リテ爲スル所ナリ

引受ヲ目的トスル行爲ハ將來成立セントスル會社ノ株主ト爲ルニシテ目的ト  
 スル意思表示ニシテ一ノ法律行爲ナリ何トナレハ株式ヲ引受ケタル者ハ會社  
 ノ設立ニ關シ種種ノ權利義務ヲ有シ會社成立シタルトキハ其株主ト爲ルコト  
 ヲ得ルカ故ナリ此行爲ハ契約カナルカ將タ單獨行爲ナルカ予雖ノ解スル所ニ依  
 レハ株式引受行爲ハ契約ナリ爰ニハ唯同時設立ノ場合ニ於ケル株式ノ引受ニ  
 付テ論スベシ抑モ株式會社ノ設立ニハ同時設立及ヒ漸次設立ノ二方法アリテ  
 二者ノ相違ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケルト否トニ因リテ生ス發起人カ株  
 式ノ總數ヲ引受ケルニ當リテハ各發起人ノ引受タル株式ノ數ニ付テモ亦發起  
 人相互間ニ合意アルコトヲ要ス然ラズレバ株式總數ノ引受ナルモノ成立セザ  
 ルベシ故ニ各發起人ノ株式ノ引受ハ發起人相互間ノ契約ニ因リテ成立シ其引  
 受行爲ハ一ノ契約ナリ茲ニ同時設立ノ場合ニ於ケル株式引受ノ同時  
 發起人ハ株式引受行爲ハ法律上何等ノ方式ヲ要セズ故ニ書面ヲ以テスルモ又  
 口頭ヲ以テスルモ可ナリ漸次設立ノ場合ニ於ケル株式申込人ハ株式申込證ニ  
 依リテ株式ヲ申込テ爲ストハ大ニ異ナレリ又發起人カ株式ヲ引受ケル時期

### 第三章 交互計算

交互計算 (Kontraktverrechnung) 又ハ *Laufende Rechnung* ハ 手形ト同シク信用制度ノ一  
 種ニシテ以テ現金授受ノ煩雜ナル手數ト費用及ヒ危險ヲ防キ且又一般ニ資本  
 カ不生産的ニ貯藏セラルルコトヲ妨クルモノナリ獨逸新商法ハ商行爲編ノ總  
 則中ニ其舊商法ノ一箇條ニ對シ三箇條ヲ規定ヲ爲シ其舊商法ヨリモ之ヲ重視  
 スレトモ我商法ハ舊商法カ之ヲ商事契約ノ章ノ一節ト爲セルニ對シ尙ホ進  
 テ之ヲ獨立ノ一章トシ比較的ニ周密ナル規定ヲ爲セリ茲ニ其規定ヲ述ベ  
 第一節 交互計算ノ意義 銀行業ノ發達ニ伴ヒテ各銀行間ノ往來ノ便  
 交互計算トハ商人間又ハ商人ト非商人トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一  
 定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂  
 ヲ爲スベキコトヲ約スルヲ謂フ(第二九二條) 茲ニ其意義ヲ述ベ且其注意  
 (一) 交互計算ノ當事者ハ少クとも其一方カ商人タルコトヲ要ス非商人間ニ在  
 リテハ假令交互計算ニ類似セル契約ヲ結フコトアルモ之ヲ交互計算ト稱スル

コトヲ得ス而シテ尙モ當事者ハ一方カ商人ナルトキハ其商人ハ小商人ニシテモ可ナリトス

(二) 交互計算ノ當事者ハ平常繼續シテ取引ヲ爲ス者タルコトヲ要シ且相互ニ債權ヲ得債務ヲ負フ者タルヲ要ス何トナレハ交互計算ノ當事者雙方ノ債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シテ其殘額ヲ支拂フヘキ契約ナリ然レトモ當事者雙方カ相互ニ債權ヲ得債務ヲ負フヘキ者ナルトキハ各箇ノ場合ニ於テ事實上當事者ノ一方ニ債權ヲモカ生シ相手方ニ債務ヲモカ生シタルコトヲ妨ケタルナリ(コトサツ之第三五四頁參照)

(三) 交互計算ノ目的ハ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ナルコトヲ要ス而シテ此債權債務ハ金錢債務ニ限ルモノト解スルヲ以テ妥當ナリトスヘシ何トナレハ同種ノ債權債務ニシテ同時ニ當事者雙方ニ生シ而モ性質上相殺スヘキモノハ金錢債務以外ニ之ナレト謂フモ可ナレトナリ(獨逸帝國裁判所民事判決例集第二二六三頁)而シテ交互計算ニ依リテ相殺セラルヘキ金錢債務ノ範圍如何ハ各箇ノ場合ニ於テ契約ニ依リテ定メラルヘシト雖モ何等ノ契約ナ

キトキハ取引上通常生スヘキ總テノ債權債務ヲ包含スルモノト解スヘシ

(四) 交互計算ノ目的中ニ手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得第二九二條何トナレハ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザルトキニ於テ之ニ對スル代金支拂ノ債務ヲ交互計算中ニ組入レ置クハ甚タ不條理ナルノミナラス其結果債務者カ辨濟ヲ爲サザル爲メニ生シタル償還請求等ノ債權モ之ヲ交互計算中ニ組入レザルヘカラザルコトト爲ルモ手形ノ如キハ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザリシ場合ニ於テ當事者カ償還請求ヲ爲スニハ一定ノ短期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要シ之ヲ交互計算中ニ加ヘ置クコトヲ得ザル事情アレハナリ

(五) 交互計算ノ目的ハ一定期間内ニ生スル債權債務ナリ其期間ハ當事者契約ニ依リテ自由ニ之ヲ定ムヘシ當事者之約定ナレバキム之ヲ六箇月トス第二九三條舊商法ハ一年以下タルヘシト定メ獨逸新商法ハ別段ノ定ナキトキハ一年トスト定メタルモ獨逸ニ於テモ商慣習ニ多數ハ章口六箇月ナリト云

フ(スタック)第一二五頁、三〇七ページの第三四八頁参照) 海峽植民地六六號規則第廿六條云

(六) 交互計算ノ契約ハ明示又ハ默示ニ締結セラルルコトヲ得ルノ例ヘハ一定期間毎ニ計算書ヲ送ルカ如キ場合ニハ假令明示ノ約束ナキト雖モ默示ノ交互計算アリト謂フヘキナリ

第二 交互計算ノ效力

(一) 交互計算ハ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキ契約ナリ故ニ此契約ノ締結ニ因リ次ノ效果ヲ生ス

(イ) 各箇ノ債權債務ハ其期間内ハ停止ノ位置ニ在リ故ニ其履行ヲ請求スルコトヲ得ス隨テ之ニ對シテ時效ハ進行スルコトナシ(民法第一六六條、三〇七)ハ之ニ反對セリ、三〇七條(商法教科書第三五一頁)又債務者ハ遲滞ノ責ヲ負フコトナシトス

(ロ) 總額ニ付キ相殺スルコトヲ要スルヲ以テ各箇ノ債權債務ハ各別ニ履行ヲ請求スルコトヲ得ス隨テ交互計算ノ契約アルトキハ各箇ノ債權債務ハ性質上

讓渡ヲ許ササルモノト爲ルナリ

(二) 交互計算ニ在リテハ當事者ノ一方ハ殘額ヲ支拂フ義務ヲ負フ而シテ其殘額(Residuum)ノ確定ハ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ニ依ルモノトス

(イ) 殘額ノ確定ヲ爲ス爲メニハ當事者ノ一方ヨリ債權債務ノ各項目及ヒ其差引殘額ヲ記載シタル計算書ヲ差出シ相手方之ヲ承認スルコトヲ要ス計算ヲ差出シタル當事者ハ差出シタルト同時ニ其計算書ヲ承認シタルモノナルヲ以テ相手方ハ其計算書中貸方ニ付テハ之ヲ承認セタル場合ト雖モ尙ホ借方ニ付テハ之ヲ以テ其計算書ヲ差出シタル當事者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ

(ロ) 當事者カ計算書ノ承認ヲ爲シテ殘額カ確定セラレタルトキハ各當事者ハ各箇ノ債權債務ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但各箇ノ債權債務ニ錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス(第二九四條)詳言スレハ計算書ノ承認自體ニ意思ノ欠缺若クハ瑕疵アリタル場合ニ其無効ヲ主張シ若クハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ルハ言フ埃タサレトモ各箇ノ債權債務ニ付テハ錯誤脱漏ノ外ハ復タ異議ヲ述フルコト能ハサルナリ此計算書ノ承認カ更改的效力ヲ有スルカ將

タ單ニ債務ノ承認タル附屬的約束タルニ止マレルカニ付テハ漏逸學者間ニ爭  
 アヲ(グレイセル)「プリンクマン」(クンツ)「エニゲルンツ」(ヒレ)「ダグ」(スベル)「グ  
 」「シエーレル」(ブール)「ニエンデマン」及「上スタク」(ハ前説)「シヤイ」(ド)「ライ  
 」(「エンナ」)「リ」(「セル」)「レ」(「ビー」)及「ヒ」(「コーナ」)「ク」(ハ後説)「ハ」(「情  
 義書」)「承」(「認」)「自」(「計」)「算」  
 (三) 交互計算ニ在リテハ債務者ハ殘額ニ付キ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ  
 支拂フ義務ヲ負フ(第二九五條第一項)尙ホ各項目ノ債權債務ハ法律ノ規定(第  
 七五條)又ハ當事者ノ意思表示ニ依リテ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ  
 之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス(第二九五條第二項)故ニ此場合ニ於テハ法律上  
 重利ヲ認メタルモノニシテ民法第四百五條ノ例外ヲ爲スモノナリ  
 第三 交互計算ノ終了  
 交互計算ハ一般契約ト同一原因ニ因リテ終了スト雖モ茲ニ説明ヲ要スル場合  
 二アリ  
 (一) 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直  
 テニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得(第二九六條)

是レ交互計算カ信用制度ノ一種トシテ當事者相互間ノ信用ニ依リテ成立セル  
 コトノ當然ノ結果ニシテ各當事者ハ相手方カ信用ヲ失墜シタル場合ニ於テハ  
 契約ニ期間ノ定アルト否トヲ問ハス直チニ契約ノ一方ノ解除ヲ爲スコトヲ得  
 ルモノナリ恰モ民法ノ委任ノ場合ト同様ナリトス民法第六五一條參照  
 (二) 當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ交互計算ハ之ニ因リテ當然  
 終了ス何トナレハ辨濟期限ノ未タ至ラサル破産者ノ債務ハ破産宣告ニ因リテ  
 辨濟期限ニ至リタルモノト爲ルハ破産法ノ規定ノ定ムル所ナレハナリ(第九八  
 八條第一項)「コーナ」(第三五五頁參照)

### 第四章 匿名組合

匿名組合 (anonyme Gesellschaft) 合資會社ト同一ナル經濟上ノ基礎ニ立ツモノニシテ  
 共ニ資本家カ財産出資ヲ爲シテ他人ノ主宰スル商業ニ加入シ之カ利益ノ分配  
 ニ預ルモノナリ又沿革ヨリ之ヲ論スルモ共ニ第十世紀頃ニ生シタル「コンメン  
 」(「Comptoir」)ナル契約ニ淵源スルモノナリ此契約ハ初メ他人ノ海外ノ事業ニ

資本ヲ投シテ利益ノ分配ニ預ルモノナリシカ後内地ノ事業ニモ行ハルルニ至  
 レリ此「ロイヤルティ」發達シテ「アソシエーション」(association) 又ハ「societas per viam  
 accomandate」ト爲レリ是レ即チ今日ノ合資會社ノ前身ニシテ外部ニ對シテ一  
 ノ會社ヲ形成セルモノナリ然ルニ伊太利ニ於テハ之ト對シテ「バルチチバチオ」  
 (Particatio) 又ハ「societas per modum participations」ナルモノヲ生セリ是レ即チ今日ノ  
 匿名組合ノ嚆矢ニシテ他人ノ營業若クハ他人ノ爲メトスル商行爲ニ出資シ  
 テ利益ノ分配ニ預ルモノナリ「ルイ」第十四世「オルドナンス」ド、コンメルス「ハ唯  
 合資會社 (société en commandite) ノミヲ認メタレトモ實際ニ於テハ匿名組合ニ類シ  
 タル組合ヲ存シタルヲ以テ「コールド」ド、コンメルス「ハ合資會社ヲ外ニ匿名組合ニ  
 該當スベキ「アソシエーション」アンバルチシオン (association en participation) ヲ認  
 メタリ」セリ此「ルイ」第十四世「オルドナンス」ド、コンメルス「ハ合資會社」ヲ認  
 此ノ如ク二者ハ經濟上ノ基礎ト沿革上ノ淵源ヲ一ニセルモ法律上ニ於テハ全  
 然別物ナリ合資會社ニ在リテハ其營業商號財產ハ團體ノ營業商號財產ナリ即  
 チ社員共同ノ有ニシテ一社員ノ有ニ非ス之ニ反シテ匿名組合ニ在リテハ他人

事者間ニ信用ノ厚キ場合ノ如キニ於テハ保險料ノ後拂願ル多シ例ヘハ日歩火  
 災保險ノ如キ又ハ常得意ノ海上保險契約ノ如キニ於テモ契約満了後又ハ毎月  
 末若クハ毎年末ノ勘定ヲ以テ保險料ヲ授受スルコトアルカ如シ且テ其取  
 保險料ノ拂込ト同時ニ契約ノ成立スルコトトスル場合並ニ契約シタル期日毎  
 ニ保險料ヲ拂込ム場合ニ於テ此契約者カ之ヲ發シタル時ヲ以テ拂込ミタルモ  
 ノト看做スヤ又ハ保險者カ之ヲ受ケタルトキヲ以テ斯ク看做スヤノ問題ノ發  
 生スルコトハ他ノ契約ニ於ケルト同一ナリ我國ノ實際ニ付テ云ヘハ保險約款  
 ニ保險契約ハ全體カ第一回保險料ヲ領受スルト同時ニ成立スト規定スルヲ普  
 通トスルカ故ニ第一回ノ保險料ニ付テハ實際異議ノ生スルコトナシト雖モ若  
 シ此ノ如キ明約ナケレハ如何ト云フニ予ハ發信主義ヲ以テ至當ナリト想惟ス  
 何トナレハ契約者カ保險料ヲ拂込ムハ保險者カ契約者ニ其承諾ヲ與ヘタル後  
 ニ起ルコトニシテ保險者ノ必ス領收セサルヘカラサルモノナルカ故ニ契約者  
 ノ利益ニ解釋スルモ毫モ保險者ノ不利益ヲ來ササレハナリ之ト同シク第二回  
 後ノ保險料ヲ拂込ム場合ニ於テモ契約者カ正當期限内ニ發送スルヲ以テ有效



ナリトセサルヘカラスルニシテ、  
 保險料ハ契約セラレタル危険ノ容積ニ應ズル分ヲ一時ニ拂込ムヲ普通トスル  
 モ便宜上之ヲ分割シテ拂込ムハ隨意契約ノ範圍内ナリ但別段ノ契約ナキトキ  
 ハ危険ノ性質上又保險ノ原理上及ヒ法理上契約シタル危険ニ對スル保險料ハ  
 分割スヘカラサルモノニシテ例ヘハ一月一日ニ一箇年間ノ火災保險契約ヲ締  
 結シ三日ノ後ニ契約者カ契約ヲ解除ヲ爲ス場合ト雖モ一旦拂込ミタル一箇年  
 分ノ保險料ハ其幾部分タリトモ返還セラレヘキモノニ非ス隨テ亦分割拂込メ  
 契約ニテ半箇年ニ對スル分ノミカ拂込アリタル場合ニ在リテハ保險者ハ他ノ  
 半箇年分ヲモ請求スルコトヲ得ルノ理ナリ  
 此保險料ノ分割スヘカラサルハ第一ハ危険ノ本質ヨリ來ルモノニシテ保險者ノ  
 擔保シタル危険ハ一箇年ノ始メニ起ルヤ將タ最終日ニ起ルヤ固ヨリ不明ナリ  
 保險者カ保險契約ヲ締結シテ或一定期間内ノ危険ヲ擔保シタル以上ハ其期間  
 ニ踏込ムヤ否ヤ全責任ヲ負フモノニシテ已ニ此全責任ニ對スル報酬ヲ享受ス  
 ルノ權利ヲ得サルヘカラス故ニ縱令三日ノ後又ハ半年ノ後保險契約者カ其保

險セラレタル利益ヲ拋棄スト雖モ過リテ保險者ノ負擔ヲ輕ク得ザルナリ  
 次ニ保險ノ原理ヨリスレハ一箇年ノ危険ハ其程度ニ於テ始終同一ナラス例ヘ  
 ハ火災ノ危険ノ如キハ一月ヨリ三四月ノ頃ヲ非常ニ高度ナレトモ五六月ヨ  
 リ八九月ニ至ルマテハ極メテ低度ナリ而シテ十月ヨリ年末ニ至ルマテハ稍ヤ  
 火災ノ頻繁ナラントスルノ候ナリ況ヤ時刻刻ニ於ケル精密ナル程度ニ至リ  
 テハ殆ト算定スヘカラス故ニ平均ヲ以テ定メラレタル一箇年ノ危険程度ハ之  
 ヲ分割シテ考察計算スルノ途ナク常ニ經過シタル期間内ニ普通一箇年間ノ危  
 險ヲ負擔シタルモ計ルヘカラサルカ故ニ保險者ハ之ニ對シテ一箇年分ノ保險  
 料ヲ請求セサルヘカラサルナリ又保險會社カ其營業ノ基礎トシテ保險料ヲ算  
 出スルニ付テモ一箇年ノ平均ヲ取リテ其以内ノ短期間ニ付テハ別ニ調査スル  
 所ナシトス  
 危險ノ分割スヘカラサル結果トシテ生スル所ノ保險料ノ分割スヘカラサルコ  
 トハ前述ノ理由ヨリシテ法理上ノ原則トシテ普ク承認セラレタル所ナリ實ニ  
 契約解除ノ場合ノミニ非ス危險ヲ消滅シ若クハ減少スル場合ニ於テモ此原則

ヲ適用スヘシ例ハ横濱ヨリ長崎ニ至ル貨物保險ヲ契約シタル場合ニ該貨物カ神戸ニ至リテ陸揚セラレタル場合ノ如キハ神戸以西ノ危險カ忽チ消滅シタルカ如シト雖モ契約者ハ保險料ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ス又神戸ヨリ一層安至ナル船舶ニ搭載セラレ危險減少スト雖モ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得サルカ如シ但當事者カ特別ノ危險ヲ得附シテ特ニ高價ナル保險料ヲ定メタル場合ニ於テ其特別ノ危險消滅シタルトキハ保險契約者ハ其以後ニ對スル保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ト我商法第四百條ニ定メタルハ初ヨリ危險カ分割シテ算定セラレタル特別ノ場合ヲ想像シタルモノニシテ例ハ生命保險ニ於テ戰爭ニ赴クカ爲メニ既定保險料ノ増加ヲ約シタル場合ニ無事凱旋ノ曉ニ其増加部分ノ撤去ヲ將來ニ向ヒテ請求スルコトヲ得ルカ如シ

保險契約者カ當ニ一旦拂込ミタル保險料ノ返還ヲ請求スルコトヲ得タルノミナラス分割拂込ノ場合ニハ未拂込ノ部分ヲモ徵收セラレルコトハ理論上前述ノ理由ニ依リテ當然ナリト雖モ實際ニ於テハ實行不實行相爭セザ例ハ生命保險ニ於テ毎月拂込ヲ約シ三箇月經過ノ後死亡セルカ如キ場合ニ保險者ハ拂

渡スヘキ保險金ノ中ヨリ九箇月分ノ保險料ヲ差引ク便スルカ故ニ此原則ヲ實行シ得ヘシト雖モ契約解除ノ場合ニハ保險者カ契約者ニ付テ未拂分ヲ請求スルコトノ煩雜ナルカ故ニ殆ト之カ實行ヲ見サルナリ然レトモ是レ保險者カ任意ニ其權利ヲ拋棄シタルニ外ナラス若シ其權利ヲ行使セントナラハ勿論之ヲ爲シ得ヘシ即チ被保險者ニ返還スヘキ金員アル如キ場合ニハ之ヲ差引クコトヲ得又商法第四百十七條時效ノ規定ニ從ヒ一箇年間ハ契約者ノ義務カ存留スルカ故ニ其期間内ニ普通ノ請求ニ於ケルト同様ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルナリ其他ノ保險ニ於テモ皆然リ故ニ外國ニ於テハ二回以後ノ保險料就中火災保險ニ於テ約束手形ヲ以テ拂込マシムルコトヲ附ケリ又生命保險ニ於テモ拂戻金アル場合ニハ之ヨリ未拂込保險料ヲ差引クコトヲ明約シテ上述ノ原則ヲ實行シ居レリ契約期間ニ對スル保險料ノ不可分ナルコト此ノ如シ然ルニ保險契約ノ期間ニハ長短區區タリ就中生命保險ノ如キハ一年定期保險ノ最短トシ長キハ數十年ニ涉ルアリ例ハ養老保險修身保險ノ如シ然レト雖モ此數十年カ契約ノ保險期間ナリト解釋スヘカラス保險契約ハ特約ナクシテ一箇年ヲ原則ト

スルモノニシテ數年ノ契約ハ此一箇年ノ契約ヲ無條件ニ更新スルコトヲ豫約  
 スルノ謂ニ外ナラス故ニ養老保險ノ解約者ニ對シテ以テ保險料ヲ悉皆  
 請求シ得ルモノトハ解釋シ得ヘカラサルナリ  
 保險契約者カ保險期間内ニ於テ危險ノ消滅又ハ減少ヲ理由トシテ保險料ヲ返  
 還又ハ減額ヲ請求スルコト能ハサルハ勿論ナルモ一定ノ期間ヲ經過シテ更ニ  
 新保險料ノ拂込ニ際シ危險減少ニ伴ヒテ保險料ノ減額ヲ請求シ得ルコトハ置  
 ラ埃タス是レ此期間ハ別ノ保險期間ニシテ前ノ期間ト區別シテ考ヘラルルカ  
 故ナリ  
 保險期間内ニ於ケル危險減少ハ上述ノ如ク認マラレサルヲ原則トスト雖モ之  
 カ反對ナル危險ノ増加ハ明カニ保險者ノ責任ヲ重カラシメ其負擔ヲ大ナラシ  
 ムルモノナルヲ以テ保險者ハ保險契約者ニ對シテ保險期間内ト雖モ保險料ノ  
 増額ヲ請求スルコトヲ得而シテ保險契約者カ之ヲ承諾セザルトキハ保險者ハ  
 契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ニシテ我商法第四百十一條ニモ此規定ア  
 リ而シテ該條及ヒ其他ノ法條ニモ其解除ハ將來ニ向ヒテハ其效力ヲ生スト

スルハ解除ノ原則ハ契約ノ原形ニ復セシムルニ在ルヲ以テ普通ノ解除トスル  
 ハ保險契約ヲ未締結ノ狀況ニ引戻ササルヘカラス然ルニ保險契約ニ於テ一旦  
 保險者ノ供給シタル擔保力ハ既往ニ遡リテ之ヲ取除クコトヲ得サルカ故ニ將  
 來ニ向ヒテハ解除ノ效力ヲ生セシメタルモノナリ換言セバ既ニ支拂ヒタル  
 保險料ハ返還ヲ要セザルモノトシタルナリ火災保險等ニ於テ保險者ヨリ中途  
 ニ契約ノ解除ヲ請求シタル場合ニハ殘餘ノ期間ニ於テハ日割ヲ以テ保險料ヲ  
 返還スルコト屢アリ然レトモ是レ通常保險者カ隨意ニ契約ノ解除ヲ請求スル  
 場合ニ雙方協議上定メタル所ノ變則ニシテ危險増加ニ付テハ解除ニ適用セラ  
 ルヘキモノニ非ス  
 更新保險料及ヒ定期拂込ニ於ケル第二回以後ノ保險料ハ契約ニ於テ定メラレタ  
 ル期日毎ニ拂込ムヘキモノニシテ然ラザル場合ニハ契約ノ效力ヲ失フヲ當然  
 トス何トナレハ保險料ハ保險契約ノ要素ニシテ之ヲ缺キタルトキハ保險契約  
 ノ存在スヘキ理ナクナリ  
 舊商法ニ於テハ保險料ハ契約ノ期間ニ拂込マレザル場合ニハ保險者ハ契約ニ

商法商行為 保險 保險法論 保險契約ノ要義

萬東セラブルロトナシト規定シ又生命保險ノ節ニ於テ保險料ノ不拂ハ保險者ニ於テ之ヲ契約解除ノ豫告ト看做スコトヲ得ト規定セルモ新商法ニハ此等ノ規定ナシ是レ蓋シ自然ノ理ナリトハナリ蓋シニモ之ヲ規定スルハ保險契約ノ期日ニ於ケル保險料ノ不拂ヲ契約無効ノ原因トスルハ理論上已ムヲ得ナル所ナルモ實際ニ於テ屢々慘酷ナル結果ヲ惹起スコトアリ何トナレハ契約者カ契約ヲ解除スル意ニ非ス又延滞セシメントノ故意ニ非スシテ其過失無意若クハ已ムヲ得ナル事情等ヨリ期日ヲ過タル場合ナキニ非ズ然ルニ此場合ニ忽チニ契約ヲ無効トスルハ契約者ニ對シテ嚴格ナル處置ニシテ折角彼カ繼續シ來リ猶ホ繼續セント欲セシ所ノ耐忍ト希望トヲ水泡ニ歸セシムル所爲ナル故ニ保險者ハ通常猶豫期間ナルモノヲ設定シ正當期日ヲ經過シタル後ト雖モ該期間内ニ於テ保險料ヲ拂込メハ契約ヲ有效ナラシムルノ習慣西洋諸國ハ勿論我國ニモ普ク實行セラルル所ナリ其間ニ於テハ猶豫期間ハ勿論我國猶豫期間ハ之ヲ左ノ二種ニ別クコトヲ得

第一ハ單純ナル保險料拂込ニ爲シタル猶豫期間ニシテ其間ニ拂込マレタル保

外患罪ヲ區別シテニト爲ス(第一)背叛罪(第二)局外中立ノ布告ニ違背スル罪是ナリ

第一項 背叛罪

刑法ノ規定スル所ニ依レハ背叛罪ヲ分チテ四ツノ罪トス(一)本國ニ抗敵シタル罪(二)敵兵ヲ誘引シタル罪(三)軍機ヲ漏泄シタル罪(四)軍備品ヲ缺乏ヲ致シタル罪即チ是ナリ

第一本國ニ抗敵シタル罪刑法第百二十九條ニ曰ク(一)外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戦中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス(二)本條ヲ分析スルトキハ三ツノ場合ト爲ル(一)外國ニ與シテ本國ニ抗敵シタル場合(二)交戦中同盟國ニ抗敵シタル場合(三)敵國ニ附屬シタル場合是ナリ

(一)外國ニ與シテ本國ニ抗敵シタル場合此場合ノ罪ヲ構成スルハ二條件ヲ要ス(一)外國ニ與スルコト(二)外國トハ我國以外ニ於テ獨立權ヲ有スル國トシ邦



(二) 本國ニ背叛スルコトヲ要ス(三) 敵兵ニ附屬スルコトヲ要ス故ニ若シ本國ノ承諾ヲ得タルトキハ敵兵ニ附屬スルモ至モ不可ナルコトナシ又本國ニ背叛スルモ敵兵ニ附屬セザル場合亦同シ背叛トハ本國ニ對シテ當然盡スベキ臣民ノ義務ヲ破ルノ行爲ヲ謂フ故ニ背叛ノ行爲其モノニシテ既ニ惡ムニ足ルヘキモノアリト雖モ徵兵令其他ノ法律ニ於テ特ニ之ヲ罰シタル場合ノ外ハ刑法上一罪ヲ爲スモノニ非ス唯背叛ニ伴フニ敵兵ニ附屬スルノ所爲アリテ始メテ本條ノ罪ヲ構成スルモノナリ敵兵ニ附屬スルトハ敵ニ降リテ敵兵ノ部屬ト爲ルヲ謂フ故ニ或ハ隊伍ニ編シテ戰鬥士ト爲ルモ或ハ看護卒ト爲ルモ或ハ水火夫ト爲ルモ或ハ軍夫ト爲ルモ衙門モ都屬ト爲リタルトキハ唯其所爲ノミニシテ既ニ本條ノ制裁ヲ受タルニ餘アリ必スシモ日本國ニ對シテ抗敵スルヲ要セズ

第二 敵兵ヲ誘引シタル罪 此場合ノ犯罪ヲ構成スルニハ誘引ニ要ス

(一) 交戰中ナルコトヲ要ス交戰中ニ非サレバ成立セザルカ故ニ平時ニ於テ誘導、交付ノ行爲アルモ我刑法ハ之ヲ罰スルノ途ナカラントス然レドモ平時ト雖モ敵兵ヲ誘導シ若クハ都府城塞兵器艦艦ヲ敵國ニ交付シタルトキハ我國ヲシ

テ危害ニ陥ラシムルニ至リテハ交戰中トモ異ナル所ナシ交戰中ハ此等ノ行爲ヲ罰シテ平時ニ於テハ之ヲ罰スルナシトスルハ刑法ノ規定大ニ缺クル所アリト謂ハサルヘカラス

(二) 敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ又ハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞其他ノ物件ヲ敵國ニ交付スルコトヲ要ス(一) 敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシムルニト、凡シ交戰中ハ敵兵ノ來ルヘキ場所ハ豫メ守備兵ヲ設ケテ之ヲ防禦スルカ故ニ敵兵容易ニ我管内ニ入ルヲ得ス是故ニ敵兵ヲ管内ニ入ルルハ罪ヲ犯ス者ニ要所ノ守備兵即チ軍人ナラサルヘカラス軍人以外ノ人ニシテ此罪ヲ犯スコトハ想像ノ外ニ在リトス然ルニ陸軍刑法ニ於テハ之ヲ罰スルノ規定ホクシテ却テ之ヲ普通刑法ニ規定スルヲ以テ若シ軍夫ニシテ此罪ヲ犯スアラバ則チ普通刑法ヲ以テ之ヲ罰セザルヘカラス陸軍刑法ハ何故ニ此場合ニ付テ規定ヲ設ケテ之ヲシヤ惟フニ敵兵ノ來ル場所ニハ概チ堡壘城塞アリテ之ヲ守ルカ故ニ敵ニ於テ此堡壘城塞ヲ占領スルニ非サレバ我管内ニ入ルコトヲ得ズ故ニ堡壘城塞又ハ軍用ニ關スル土地即チ防禦攻撃ニ必要ナル場所ヲ交付スル罪ヲ規定ス

ル以上ハ敵兵カ我管内ニ入ルニ即チ其結果ニ過キタルヲ以テ敵兵ヲ管内ニ誘導スル罪ノ必要ヲ認メザリシカネン予ヲ以テ之ヲ觀ルモ荷モ防範以外ノ場所ヨリ敵兵ヲ誘引セシムルノ途アルヘキノ道理ナシ故ニ予ハ軍中陸軍刑法ニ倣ヒ此場合ヲ規定スルノ無益ナルヲ信スル者ナリ(四)本國及ヒ同盟國ノ都城要塞ヲ敵國ニ交付スルコト、是レ亦本國ノ都城要塞ニテモ又同盟國ノ都城要塞ニテモ之ヲ守ル者ハ皆軍人ナルヘキヲ以テ此罪ヲ犯ス者ハ軍人ニシテ而シテ陸軍刑法ニハ亦此罪ヲ規定スルカ故ニ到底本條ノ適用ヲ見ルコトナキニ似タリ如何トナレハ刑法第四條ニ於テ此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得(五)規定スレハナリ(六)又ハ兵器彈藥船舶ヲ交付スルコト此兵器彈藥船舶ハ本國及ヒ同盟國ノ所有ニ屬スル物ナラザルヘカラザルヲ以テ一箇人ノ所有ニ屬スル所ノ物ヲ以テ之ヲ敵ニ交付スルモ本條ノ罪ヲ構成スヘキニ非サルナリ例ヘハ日本人ニ於テ大倉組ノ所有ニ係ル兵器彈藥ヲ買入レテ之ヲ清國ニ交付スルモ本條ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス又郵船會社三菱會社等カ其所有ニ屬スル船舶ヲ清國ニ交付スルモ本條ノ罪ヲ構成スルモノニ

非タルナリ若シ夫レ政府ヲ雇入ニ係ラタルモノナルトキハ所有權ハ猶ホ一箇人ノ所有ヲ離レスト雖モ其使用ノ目的ハ政府ノ公事ニ在ルヲ以テ刑法ハ精神上ヨリ論スルモ本條ノ制裁ヲ受ケザルヘカラザルナリ(七)其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ交付スルコト、是レ亦陸軍刑法ニ於テ同一ノ文字ヲ以テ規定スル所ナリト雖モ其意義ヲ知ルコト甚タ困難ナリ軍事ニ關スル土地家屋物件トハ果シテ如何ナル土地如何ナル家屋如何ナル物件ヲ謂フカ予輩之ヲ知ルコト能ハサルナリ若シ夫レ交戰中攻守ノ衝ニ當ル所ヲモハ悉ク軍地ニ關スル土地ナルヲ以テ若シ日本全國ニ於テ戰爭アルコトヲ想像スレハ日本全國到處軍事ニ關スル土地ナラザルハナシ家屋ト雖モ亦然リ家屋ヲ以テ防禦ノ保障ニ用アルカ又ハ之ヲ軍隊ノ軍營ニ用タルトキハ何レノ家屋モ軍事ニ關スル家屋タラサルハナシ然ラハ土地ト云ヒ家屋ト云ヒ皆是レ用法ニ因リテ軍事ニ關スルモノト爲ルカ故ニ到底之ヲ一定スルコトヲ得ザルナリ之ヲ換言スレハ性質上軍事ニ關スル土地家屋物件ナルモノハ果シテ如何ナルモノヲ謂フカ予輩之ヲ知ラザルナリ惟テニ普通刑法又ハ陸軍刑法ニ所謂軍事ニ關スル土地家屋云云

ハ佛國軍律佛國軍律第二〇五條ニ所謂保守地、捕逸刑法編逸刑法第九〇條ニ所謂守地又ハ其他ノ防禦地云云ノ意義ナランカ是レ亦我刑法佛文草案佛文草案第一四九條ニ「軍人ノ屯所港、軍器製造所、兵器彈藥糧食ノ置場云云」ノ意義ニ非ナルナキカ予輩大ニ佛文ノ意義ニ付テ疑ナキ能ハサルナリ因ニ「罪章」ニ關スル第一注意ノ交戦申若シ聯合軍ノ外國人カ本條ノ罪ヲ犯シタルトキハ日本入ト等シク之ヲ罰スルコトヲ得ルカ聯合軍ノ外國人カ日本ノ兵器彈藥ヲ敵國ニ交付シタルトキハ本條若シハ陸軍刑法ヲ以テ之ヲ罰スルコトヲ得ルカ論ヲ按ズスト雖モ若シ外國人即チ同盟國人カ其國ノ都城城塞又ハ兵器彈藥其他軍用上必要ノ土地ヲ以テ之ヲ敵國ニ交付シタルトキハ向テ我刑法ヲ適用シテ之ヲ罰スルコトヲ得ルカ予輩大ニ疑ナキ能ハス此場合ニ於テ其外國人ノ犯罪ハ即チ其本國ノ犯罪ナルヲ以テ其之ヲ罰スルモ非サルナキカ同盟國ノコトハ聊カ明瞭ヲ缺タノ嫌アリ惟フニ日本人同盟國ノ都城城塞又ハ兵器彈藥等ヲ保守スルノ任務ヲ帯ヒタル者ニシテ此罪ヲ犯シタルトキ始メテ本條ヲ適用シ見ルニ非サルカ予ハ寧ロ同盟國ノ語ニ之ヲ削ルルニ便セルニ如カサルコト前ヲ信ス

テハ必ス一定ノ期間又定メテ代理權欠缺者補正ヲ命ズルモ其其期而シテ其期間ノ滿了スルマテハ判決ヲ爲スコトヲ得ズルモ其其期若シ代理人カ此期間ノ滿了前ニ代理權欠缺ノ補正ヲ爲シタルトキハ初メテ代理權ヲ有シタル場合ト同シク引續キ訴訟ノ進行ヲ爲スルモノナリ之ニ反シテ代理人カ右ノ期間内ニ欠缺ノ補正ヲ爲サザリシトキハ既ニ消滅タルカ如ク代理權ノ欠缺ニ基キテ判決ヲ爲サザルヘカラス然レトモ欠缺者補正ハ期間ノ滿了後ト雖モ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ因ニ「我ニ尚訴訟委任ノ消滅ハ本則トシテ實體法ノ規定ニ從フヘキモノナルモ民事訴訟法ニ於テハ一ハ當事者ノ利益ヲ保護シテハ訴訟ノ遲滯ヲ防クカ爲テ特別ノ規定ヲ設ケタリ即チ左ノ如ク「（第六百九十五條）訴訟ノ遲滯ヲ防クカ爲テハ、（第六百九十六條）第一 訴訟委任ハ委任者ノ死亡又ハ訴訟能力若クハ法律上代理ノ變更例ハ委任者カ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ從來ノ法律上代理人カ其資格ヲ失ヒタル場合委任ノ廢罷及ヒ代理ノ謝絶即チ委任ノ解除ニ因リテ消滅スルモノナリ然レトモ此消滅ハ之ヲ相手方ニ通知スルマテハ之ニ對シテ其效力ヲ生セザルモノナリ



而シテ此通知ハ書面ヲ裁判所ニ差出シ裁判所ヨリ之ヲ相手方ニ送達スルモノ  
ナリ故ニ相手方ヨシ他方法ニ依リテ委任ヲ消滅ヲ知りタル場合ニ於テモ右ノ  
手續ニ依リテ委任ヲ消滅ヲ通知セザル以上之ヲ以テ相手方ニ對抗スルコト  
ヲ得サルモノナリ

第二 代理人カ代理ヲ謝絶ヲ爲シタルカ爲メ委任ノ消滅ヲ來シタルトキハ委  
任者カ他ノ方法ヲ以テ自己ノ權利ヲ防衛スルコトヲ得ルヤヲ其委任者ノ爲メ  
有效ニ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

我民事訴訟法ニ於テハ獨逸民事訴訟法ニ於ケルト同シテ訴訟代理人ノ外ニ尙  
ハ輔佐人ヲ認メタリ所謂輔佐人トハ口頭辯論ニ於テ當事者ノ爲メ權利ヲ伸張  
シ又ハ防禦スル目的ヲ以テ之ヲ輔佐スルガ爲メ當事者ト共ニ裁判所ニ出頭ス  
ル者ヲ謂フ輔佐人ハ訴訟代理人ト異ナリテ當事者ヲ代表スルモノニ非ス換言  
セバ當事者ニ代リテ自己ノ意思ヲ表示スルモノニ非ス然レモ當事者カ其意思  
ヲ表示スルニ當リ其表示並付等之ヲ代表スル處ニ過キタルモノナリ故ニ輔佐人  
ノ陳述カ當事者ニ其效力ヲ及ボス

且輔佐人ノ陳述ヲ即時ニ取消シ又ハ更正セザルコトヲ必要トス即チ當事者カ  
輔佐人ノ陳述ヲ駁許シタル場合ニ於テハ法律ハ輔佐人ノ陳述ヲ以テ當事者ノ  
意思ニ出テタルモノト認ムルモノナリ此ノ如ク輔佐人ハ當事者ト共ニ裁判所  
ニ出頭シ且當事者カ反對ノ意思表示ヲ爲ササル以上之ニ對シテ效力ヲ及ボ  
スヘキ一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ訴訟代理人ト大ニ類似スルモノト  
謂ハサルヘカラス

輔佐人タルコトヲ得ル者ハ辯護士其他ノ訴訟能力者ナリ然レトモ辯護士以外  
ノ者カ輔佐人タルニハ裁判所ノ許可ヲ必要トス又裁判所ハ何時ニテモ其許可  
ヲ取消スコトヲ得ルモノニシテ且辯論ヲ棄トスル輔佐人ヲ退席セシムルコト  
ヲ得ルモノナリ

第十八章 當事者ト裁判所トノ關係

民事訴訟ハ私權保護ノ手續ナリ故ニ民事訴訟ハ當事者ノ申立ヲ以テ開始シ私  
權保護ノ範圍モ亦當事者ノ申立ニ依リテ定マルモノトモナリベカラス加之當

當事者ノ意思ニ依リテ民事訴訟ノ終了ヲ來スコトヲ得ルモノトモテモハカテ對ルナリ故ニ民事訴訟ニ關シテハ左ノ二原則アリテ存スルモノトモテモハカテ對

第一 裁判所ハ職權ヲ以テ民事訴訟ヲ開始スヘカラス

第二 裁判所ハ當事者ノ申立テナル事物ヲ之ニ歸セシムルコト能ハス

民事訴訟ニ於テ私權ノ保護ヲ爲スニハ先ツ私權ノ存在スルヤ否ヤヲ明カニシ且私權保護ノ必要アルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス而シテ私權ノ存否及ヒ其保護ノ必要ノ有無ハ或事實ノ有無ニ係ルモノナリ故ニ私權ノ保護ヲ與ズルモハ必ス事實ノ調査ヲ爲ササルヘカラス而シテ事實ノ蒐集之ヲ裁判所ノ職務ニ屬セシムヘキモノナルカ又ハ之ヲ當事者ニ委ヌヘキモノナルカノ問題ハ主トシテ便宜ニ依リテ決セラレルモノナリ又裁判所ハ自ラ事實ヲ蒐集スヘキモノト爲ス立法主義ヲ職權主義若クハ私問主義ト爲ス事實ノ蒐集ヲ當事者ニ委ヌヘキモノトスル立法主義ハ之ヲ辯論主義ト名ツタ我民事訴訟法ニ於テハ後ニ説明スルカ如ク辯論主義ヲ採用セリ

ノ行爲ヲ要スヘキモノナルカ又ハ裁判所カ職權ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナルカヤ當事者ノ申立ニ依リテ訴訟ノ進行ヲ來スヘキモノトスル主義ハ之ヲ當事者訴追主義ト稱シ裁判所カ職權ヲ以テ訴訟ノ進行ヲ計ルヘキモノトスル主義ハ之ヲ職權訴追主義ト稱ス我民事訴訟法ニ於テハ此二主義ヲ折衷セリ

第一節 當事者ノ訴訟行爲

當事者ノ訴訟行爲ハ主トシテ意思表示ナリ當事者カ裁判所ニ申立テ爲シ又事實ヲ主張シ相手方ノ事實上ノ主張ヲ争ヒ若クハ證據方法ヲ申出ツルコトハ何レモ意思表示ト謂ハサルヘカラス蓋シ當事者カ申立ヲ爲スハ裁判所ノ行爲ヲ

要求スルモノナリ又事實ヲ主張スルハ其事實ヲ以テ裁判ノ基本ト爲スコトヲ求メ又相手方ノ事實上ノ主張ヲ争フハ其事實ヲ以テ裁判ノ基本ト爲スヘカラナルコトヲ裁判所ニ要求スルモノニ外ナラス又證據ノ申出ハ證據開ヲ要求スル意思表示ナルコトハ少シモ疑ナキ所ナリ

右ニ述ヘタルカ如ク當事者ノ訴訟行為ハ主トシテ意思表示ナルモ當事者カ訴訟上ノ保證ヲ立ツルカ如キハ之ヲ以テ意思表示ト爲スコトヲ得ナルナリ

當事者ノ訴訟行為ノ相手方ハ通常裁判所ナリ即チ當事者ハ裁判所ニ對シテ訴訟行為ヲ爲スコトヲ常トスルモノナリ當事者雙方カ裁判所ニ出頭シテ訴訟行為ヲ爲ス場合ニ於テハ當事者ノ一方ハ相手方ニ對シテ訴訟行為ヲ爲スモノナルカノ如キ外觀アリ然レトモ此場合ニ於テモ當事者ハ主トシテ裁判所ノ行為ヲ要求スルカ爲メニ訴訟行為ヲ爲スモノナルカ故ニ其行為ヲ相手方ハ裁判所ナリト謂ハサルヘカラス裁判所ハ當事者雙方ヲ審理スル必要アルヲ以テ當事者ノ一方カ訴訟行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ヲ相手方ニ通知スル必要アリ而シテ當事者雙方ヲシテ同時ニ辯論ヲ爲サシムルトキハ此通知ノ勞ヲ省キ訴訟

進行ヲ迅速ナラシムルコトヲ得ルモノナリ故ニ法律ハ當事者雙方ヲ對立同時ニ裁判所ニ出頭シテ訴訟行為ヲ爲サシムルモノナリ是レ即チ當事者ハ互ニ相手方ニ對シテ訴訟行為ヲ爲スカ如キ外觀ヲ生シタル所以ナリ

當事者ノ訴訟行為ハ其内容ニ依リテ之ヲ區別スレハ訴訟ノ進行訴訟上ノ材料ノ提供及ヒ處分行爲ヲ三ト爲ルハニ不誹義キハ是邊ヲ審理スルハ其訴訟ノ進行第一ニ訴訟ノ進行ヲ審理スルハ其訴訟ノ進行ニ對シテハ其訴訟ノ進行ニ由ル即チ訴ヲ起シ強制執行ノ申立ヲ爲シ判決ノ更正及ヒ判決ノ補充ニ關スル申立ヲ爲スカ如キハ何レモ當事者ノ爲スヘキ所タリ訴訟手續ヲ停止シタル場合ニ於テ再々之ヲ進行モシメシムルハ又當事者ノ申立ヲ必要トス即チ當事者カ中斷中止若クハ休止申ナル訴訟手續ノ進行ヲ計ラントスル場合ノ如キハ又之ニ必要ナル訴訟行為ヲ爲スヲ要ス終局判決ノ言渡アルモ其未タ確定セザル間ニ上級審ニ於テ之ヲ再開キントスル場合ニ於テモ亦當事者ノ申立ヲ必要トス然レトモ進行中ニ在ル訴訟手續ノ完結ヲ計ルカ爲メ之ヲ進行スルハ後ニ説明

スルカ如ク裁判所ニ爲スヘキ所ノモノナリ。又、第二訴訟上ノ材料ヲ提供スルハ、第三訴訟上ノ材料ハ申立、法律上ノ規定、事實及ヒ證據方法ナリ。其末ノ證據方法ハ、當事者ハ如何ナル主意ノ判決ヲ得ントスルヤヲ申立テサルヘカラス。換言スレハ當事者ハ其申立ニ於テ自己ノ得ントスル裁判ノ内容ヲ表示スルノ必要アリ。是レ即チ民事訴訟ノ性質ヨリ生ズル當然ノ結果ナリ。當事者ノ申立ハ口頭辯論ヲ必要トスル訴訟手續ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ口頭辯論ヲ必要トセサル場合ニハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ。第二ノ場合ニ於ケル申立ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ申請ト稱ス。

當事者ノ得ント欲スル裁判カ他人ニ不利益ナル状態ヲ惹起スヘキモノナルトキハ其裁判ヲ求ムル申立カ他ノ者ニ對スル攻撃ト謂ハサルヘカラス。訴又ハ上訴ノ提起及ヒ相手方ヲシテ證書ヲ提出セシムヘキ裁判ヲ得ントスル申立ノ如キ即チ然リ。此ノ如ク當事者カ他人ノ者ニ不利益ナル裁判ヲ得シコトヲ求ムル場合ニ於テハ他ノ者ヲシテ防禦ヲ爲スル機會ヲ得セシメサルヘカラス。所謂防禦

ヲハ原本ノ提出ヲ要スレトモ當事者ノ間ニ其證書ノ真正ナルコトニ付テハ爭ナク唯其效力若クハ解釋ニ付キ爭アルニ過キサルトキハ原本ノ提出ノミヲ以テ足レリトス。然レトモ此場合ニモ亦裁判所ノ職權ヲ以テ其原本ノ提出ヲ命スルコトヲ得故ニ例ヘハ其原本ニ解シ難キ記載アリテ誤謬アルモノ疑ヲ生シタルトキハ更ニ原本ノ提出ヲ命スルコトヲ得ヘシ。第三四九條第一項第二項

右公正證書又ハ私署證書ノ原本ヲ提出シタル場合ニ公正證書ノ正本又ハ私署證書ノ原本ヲ提出ヲ命セラレタルニ拘ハラズ。舉證者カ之ヲ提出セザリシトキハ如何ナル結果ヲ生ズルカ此場合ニ舉證者ハ全ク證書ヲ提出セザルト同一ノ不利益ヲ受ケル。否ヤト云フニ決シテ然ラズ。公正證書ノ副證書本ハ亦是レ一箇ノ公正證書ナリ。又私署證書ノ原本ニシテ其原本ト同一ナルニ付キ爭ナク場合ニハ全ク之ヲ原本ト同一視シテ可ナルモノナリ。唯右の場合ニハ裁判所ニ於テ疑ヲ生シ特ニ正本又ハ原本ノ提出ヲ命シタルニ拘ハラズ。之ヲ提出セザルモノナルカ故ニ一層裁判所ノ疑ヲ増ス。但トハ免レサル所ナレトモ其證據ヲ全ク無視スルハ理論上許スヘカラサルヲ以テ法律ハ其既ニ提出セラレタル所ヲ能

本の結果如何なる事實ヲ證明スル以テ之ヲ以テ判斷或裁判所ノ自由ナル必  
 證ニ一任シタルナリ(第三四九條第三項)トハ設クモハ限ケルニシテ其範圍ハ全ク  
 第二ニ相手方カ證書ヲ所持スル場合ニ舉證者カ證據トシテ使用シ得ルニシテ  
 書ヲ相手方ニ於テ所持セリトシテ主張ヲ爲シ其書證ヲ申出得爲スニハ相手方  
 其證書ヲ提出ヲ命ゼンコトト申立テ之ヲ爲シ得ルニシテ第三三五條此申  
 立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトト得ルトモ在テ要件ヲ揭ク者ハ第三五條此申  
 立ハ三三八條(證據ノ提出)ニ依リテ證據ノ提出ニ依リテ證據ノ提出ニ依リテ  
 (一) 證書ノ表示出是即チ相手方ヲ對テ其何レカ證書ナル事ヲ知ラシムル爲  
 旨カレハ其目的ヲ達スル程度ニ於テ之ヲ明確ニ指示スルヲ以テ足リトシ  
 取テ證書ノ全文ヲ示スニ及ハスルニ依リテ第三四四條第一項第三項  
 (二) 證書ニ依リ證書ニキキ事實ノ表示ニ依リテ裁判所ヲシテ其事實ノ果シテ重要  
 ニシテ證據調ヲ爲スル必要アルニ依リテ判斷セシムルニ必要ナル事トシテ  
 (三) 證書ノ旨趣ニ依リ證書カ前項ノ事實ヲ證明スルニ適スルヲ知ラシムル爲  
 旨トシテ之ヲ提出スル必要アル事トシテ證據ノ提出ニ依リテ證據ノ提出ニ依リテ

(四) 證書カ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スル理由タル事情ハ是レ次ノ事項ト  
 同シテ申立ノ當否ヲ明カナラシムル爲メニ開示スルニ必要ナリトシテ證據  
 (五) 證書ヲ提出スヘキ義務ノ原因ノ表示ニ證書提出ノ義務ニ後段ニ證明ヲ爲  
 スヘシトシテ  
 右ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ先ヅ以テ其申立ニ對スル相手方カ意見ヲ聞  
 キタル上ニテ第一ニ證書ニ依リテ證明スヘキ事實ノ重要ナル事トシテ第二  
 ニ其申立ノ正當ナル事トシテ第三ニ相手方カ其證書ヲ所持スル事トシテ第四  
 シタルカ又ハ其申立ニ對シテ何等ノ意見ヲモ陳述セザルトキニ始メテ證據決  
 定ヲ以テ相手方ニ證書ヲ提出ヲ命ズルニ依リテ故ニ相手方カ其證書ヲ所持ス  
 ルコトヲ明白シタルカ又ハ其申立ニ對シテ何等ノ陳述ヲ爲サズルニ依リテ其所持  
 自白シタリト看做サルル場合ニ雖モ其證書ニ依リテ證明スル事實カ重要ナル  
 ナルカ又ハ其申立カ正當ナル事トシテ裁判所ニ於テ證明スル事實カ重要ナル  
 ナリトシテ得ヘキ場合ハ相手方ニ於テ證書提出ノ義務ナル場合ニ限リ相手方

如何ナル證書ト雖モ之ヲ提出スルノ義務アルモノニ非スシテ其義務アル場合ハ法律ニ特定シタル場合ニモ大別即チ其場合ヲ掲ゲハ左ニ如クハ申立ニ依ルコトヲ得ルトキ第三三六條第一號此場合ハ民法上ノ權利ニ基キ證書ノ引渡又ハ提出ヲ請求シ得ル場合ニシテ例ヘハ舉證者カ證書ノ真正ノ所有者ニシテ相手方ハ唯一時之ヲ預リ置キタルカ其他權利ナクシテ占有スルニ過キザル場合ノ如キ又例ヘハ證書ハ相手方ノ所有ナルモ契約ニ因リテ相手方カ提出ノ義務ヲ負ヒタル場合ノ如シ此等ノ場合ニ於テハ舉證者ハ既ニ相手方ニ對シテ證書ノ引渡又ハ提出ヲ求ムル民法上ノ權利ヲ有スルヲ以テ訴訟手續ニ依リテ其證書ヲ利用セシメ爲メニ相手方ニ提出ヲ命ゼシムルヲ求ムルノ權利ヲ得ルヲ得ルモノナリ

(ロ) 證書カ其旨趣ニ因リ舉證者及ヒ相手方ニ共通ナルトキ(第三三六條第二號) 舉證者ト相手方ト雙方ノ權利又ハ義務カ共通ニシテ其關係ヲ證スル證書又ハ雙方ノ權利義務ニ關シ雙方ノ利益ニ爲メニ作リタル證書ハ勿論其他有テ相

相手方ノ所持スル證書ニシテ舉證者ノ利益ノ爲メニ作成セラレタルモノハ皆之ヲ共通ノ證書ト謂フコトヲ得故ニ此等ノ證書ヲ所持スル相手方ハ舉證者ノ請求ニ因リ訴訟ニ於テ之ヲ提出スルノ義務アルモノナリ(其法律形式ニ依リテハ) 相手方カ自ら其訴訟ニ於テ舉證ノ爲メ證書ヲ引用シタルトキ(第三三七條) 當事者ノ一方カ自ら所持スル證書ヲ證據トシテ口頭辯論ニ於テ之ヲ提出シタルトキハ勿論其單ニ準備書面中ニ引用シテ未タ之ヲ提出セザルトキニ於テモ一方ノ請求ニ因リテ之ヲ提出スルノ義務アリ又一方カ舉證ハ爲メ一旦證書ヲ口頭辯論ニ於テ受訴裁判所ニ又ハ第三百四十八條ノ場合ニ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ提出シタル後ハ相手方ノ承諾ナキ以上ハ此證據方法ヲ拋棄スルコトヲ得ス即チ相手方ハ其拋棄ヲ拒ミテ己レ自ら其證書ヲ證據トシテ利用スルコトヲ得ヘキナリ(第三五〇條) 然レモ又ハ證據ノ提出ニ依リテ相手方カ證書提出ノ義務アル場合ハ以上三ノ場合ニ限ルモノニシテ其他舉證者ハ相手方ニ證書ヲ提出セシムルコトヲ得ス相手方ニ證書ヲ提出セシムル命令ノ申立カ正當ニシテ且舉證者ノ之ニ依リテ證明セントスル事實カ重要ナル

場合ニ若シ相手方ハ此申立ニ付テハ訊問ヲ受ケ證書ヲ所持セザル旨ヲ述べタルトキハ提出命令ノ證據決定ヲ爲スコト能ハサルベク勿論ナレバ其申立ハ之カ爲メニ何等ノ救ナクシテ消滅シ終ルモノニ非ス此場合ニハ裁判所ハ其相手方ノ陳述カ果シテ眞實ナルヤ否ヤヲ判定スル爲メ又ハ證書ノ所在ヲ穿鑿スル爲メ又ハ舉證者ノ使用ヲ妨クル爲メ故ラニ證書ヲ隱匿シ若クハ之ヲ毀損滅却シテ使用ニ耐ヘザルニ至ラシメタルヤ否ヤヲ穿鑿スル爲メ相手方本人ノ訊問ヲ爲スヘキモノトス而シテ本人訊問ノ結果證書ヲ所持セザル旨ノ陳述カ眞正ナリト認めラレタルトキハ始メテ提出命令ノ申立ハ却下セラルルモノナリ之ニ反シテ相手方所持セズト申立テ各別證書ニ關シテ訊問ヲ受ケテ答辯ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキ又ハ舉證者ノ使用ヲ妨クルカ爲メニ故意ニ其證書ヲ隱匿シ或ハ之ヲ毀棄シテ使用スルコト能ハザルニ至ラシメタルコトヲ明確ト爲リタルトキハ提出命令ハ同シク之ヲ下スコトヲ得タルモ其相手方ニ對シテ不利益ナル推定ヲ生ス即チ此場合ニ舉證者其證書ヲ原本ナクシテ提出シタルモノヲ眞正ナルモノト看做スヘキモノナリ是レハ法律上ノ推定ニシテ

裁判官ハ之ニ福東セラレレト反對ノ認定ヲ爲スコトヲ得ル而シテ舉證者カ證書ヲ原本ヲ差出サザルトキハ右ノ如キ法律上ノ推定ヲ生セスト雖モ裁判所ノ意見ニ從ヒ證書ノ性質及ヒ旨趣ニ付テ舉證者ノ主張スル所ヲ眞實ナリト認ムルコトヲ得ルモノトス右ノ制裁ハ證書ヲ所持スルコトヲ自白シ又ハ敢テ之ヲ所持セザル旨ヲ述ヘタル相手方カ證書提出命令ヲ受ケテ之ニ從ハサル場合ニ於テモ亦同シ第三四〇條第一項第三四一條第一項ヲ指シテ審判官ハ其相手方カハ私人ニ非スシテ官廳ナルトキ其代表者カ證書ヲ所持セズト申立ラタルトキハ本人訊問ニ替ヘテ裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メ此期間内ニ證書カ其官廳ノ保藏ニ係ラストハ長官ノ證明書又ハ其證書ノ所在ヲ開示スルコトヲ得サル旨ヲ長官ノ證明書ヲ差出サシム此長官ノ證明書ヲ指定ノ期間内ニ差出シタルトキハ其所持セザルコトハ眞實ト看做サレ隨テ舉證者カ爲シタル提出命令ノ申立ハ却下セラル之ニ反シテ右ノ期間内ニ證明書ヲ差出サザルトキハ前ニ述ヘタル第三百四十一條第一項ニ規定スル不利益ノ推測ヲ受メ第三四〇條第二項第三四一條第二項又相手方カ官廳ニシテ證書ヲ所持スルコトヲ自白シ

又ハ提出命令ノ申立ニ對シテ何等ノ陳述ヲ爲サズルシカ爲メニ證據決定ニ依  
 リテ證據提出ノ命令ヲ受ケタル場合ニ證據ヲ提出セザルトキハ前同一ノ不利  
 益ヲ受ケルハ一私人タル相手方ニ於ケルト異ナルコトナシトシテ證據提出  
 第三ノ第三者カ證據ヲ所持スル場合ニ證據者ノ證據トシテ使用セントスル證  
 書カ當事者外ノ第三者ノ手中ニ在ルトキハ證據ヲ申出ル之ヲ第三者ヨリ受取  
 リ提出スル爲メ其手續ヲ爲スニ相當ナル期間ヲ定メシキトシテ申立ヌク爲スハ  
 キモノナリ(第三四二條)而シテ此申立ニハ相手方カ證據ヲ所持スル場合ニ於ケ  
 ル證據提出ヲ申立ニ關スル第三百三十八條ノ要件中第四號ヲ除キテ第一號乃  
 至第三號及ヒ第五號ノ要件ヲ掲ケ且其證據カ第三者ノ手中ニ存スルコトヲ疏  
 明セザルヘカラス(第三四四條)若第三者ノ手中ニ在ル證據ニ依リ證據者カ證明  
 セントスル事實カ重要ナルモノニシテ且其申立カ法定ノ要件ヲ具備スルトキ  
 ハ裁判所ハ其證據提出ノ期間ヲ定ムルモノナリ是レ亦證據決定ヲ以テ定ムヘ  
 キモノナルヲ第二百七十四條ノ規定ニ依リテ明カナリ證據者ハ裁判所ヲ定メ  
 タル取寄期間内ニ自ラ其使用セントスル證據ヲ第三者ヨリ取寄セ受訴裁判所

ノ辯論ヲ停止セザルヘカラス尤モ罰金以下ノ事件ニシテ被告人ヨリ代人ヲ差  
 出シタルトキハ辯論ヲ停止スルニ及ハサルモノトス被告人精神錯亂ノ爲メ辯  
 論ヲ停止シタルトキハ全癒ノ後必ス新ニ辯論ヲ爲サシメナルヘカラスト雖モ  
 其他ノ疾病ノ場合ニ於テハ前審理ヲ續行スルコトヲ得ヘシ尤モ五日間辯論ヲ  
 停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ新ニ辯論ヲ爲サシムコトヲ請求スルトキハ  
 之ヲ爲サシメタルヘカラス辯論終結ノ後ニ在リテハ縱令精神錯亂ノ場合ト雖  
 モ全癒後直ナニ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第一八三條)

**第三節 口頭審理**

對審裁判ノ結果トシテ辯論ハ口頭審理ナラザルヘカラス是レ裁判官ニ於テ事  
 件ニ關スル總テノ證據ヲ熟知スルカ爲メニシテ被告人證人鑑定人ノ取問等總  
 テ口頭ヲ以テ之ヲ爲サザルヘカラス

**第四節 公開**

民事訴訟法 公開 審理 公開



對審裁判ハ之ヲ公開スヘシトハ憲法第五十九條ノ命スル所ナリ公開トハ裁判所カ公廷ヲ開キ事件ノ審理及ヒ裁判ヲ爲スニハ衆人ノ傍聴ヲ許スヘシトノ趣旨ニシテ畢竟裁判所カ審問裁判ヲ爲スニ公平ニシテ不當ノ所爲ナキコトヲ擔保シ裁判所ノ威信ヲ保タシムルカ爲メ外ナラス故ニ對審裁判ハ公開スルヲ以テ原則トスレトモ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アルトキハ法律上又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得ヘシ是レ亦憲法第五十九條ニ規定セル所ナリ裁判所構成法第一〇五條

公開ヲ禁シタル場合ト雖モ裁判長ニ於テ至當ナリト認ムル者ニハ公廷ニ入ルヲ許スコトヲ得ヘシ(裁判所構成法第一〇六條)

法律上又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ公開ヲ禁シタルトキト雖モ裁判官波ノ場合ニ於テハ公開ヲ爲ササルヘカラス(裁判所構成法第一〇五條)

### 第五節 辯護權

辯護ヲ爲スコトハ被告人ノ權利タリ故ニ被告人ハ辯護ノ爲メ辯護人ヲ用フ

コトヲ得ヘシ(第一七九條第一項)而シテ其辯護人ハ裁判所ニ於テ訴訟記録ヲ閱讀シ且之ヲ抄寫スルコトヲ得(第一八〇條)

辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ(辯護士ノコト)明治二十六年法律第七號辯護士法ニ規定セリ(辯護士以外ノ者ト雖モ辯護人ニ用フルコトヲ得ヘキモ

此場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サレハ辯護人ト爲スコトヲ得ザルモノトス(第一七九條第二項)

辯護人ヲ選定スルハ被告人ノ隨意ナリト雖モ左ノ場合ニ於テハ被告人カ之ヲ選定セザルトキハ法律上又ハ裁判上辯護人ヲ付スルコトアリ

(一)重罪事件ニ付キ被告人カ辯護人ヲ自選セザルトキハ裁判長ハ法律上辯護人ヲ選任セザルヘカラス(第二三七條第一項第二項)

(二)輕罪又ハ違警罪事件ニ付キ被告人カ辯護人ヲ自選セス且(1)被告人十五歲未滿ナルトキ(2)被告人婦女ナルトキ(3)被告人聾者又ハ啞者ナルトキ(4)被告人

精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナル疑アルトキ(5)被告事件ノ模様ニ因リ辯護人ヲ必要ナリトスルトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ









一ツ目的トシテ一方ニハ短期ノ自由刑ニ處セラレシ犯人ニ對スル分房制ノ施行、  
 和年囚ノ威化教育ノ實行等ニ依リテ犯人ノ改善ヲ圖リ一方ニハ出獄人保護事  
 業ヲ獎勵シ囚徒ノ役業ヲシテ經濟上利益多ク出獄後生活ヲ營ムニ足ルベキモ  
 ノニシテ民業ト競争セラルモノヲ選擇シ以テ出獄後自活ノ途ヲ得ルノ方法ヲ  
 講シ其他監獄學校ノ設備司獄官ノ任選等各種ノ事項ニ付キ決議スル所アリタ  
 リ

我國ハ近時監獄費ヲ國庫支辨ト爲シ監獄局ハ又內務省ヨリ司法省ノ所管ニ移  
 シ別ニ警察監獄學校ヲ設備シタルカ如キハ又此決議ノ方針ニ副ヘルモノナリ  
 トス然レトモ現時ノ監獄ハ監獄則ノ規定ニ依リ罪質年齡及初期犯再犯ノ別ニ  
 依リ監房ヲ異ニスル等各種ノ規定ヲ設ケアルモ經費制限アルカ故ニ前時之方  
 實行ヲ全クスルコト能ハス猶亦時ニ犯罪人養成所又ハ犯罪人學校ノ名ヲ受ケ  
 ルコトアリ蓋シ經費ノ問題ト相待テテ最モ改良ヲ要スル事項ノ一トナリ

出入監者統計表

二十八年	二十九年	三十年	三十一年
在監者	七、七五〇	七、五〇〇	七、五〇〇
初犯	七、七五〇	七、五〇〇	七、五〇〇
再犯	七、七五〇	七、五〇〇	七、五〇〇
滿期	七、七五〇	七、五〇〇	七、五〇〇
其他	七、七五〇	七、五〇〇	七、五〇〇
出監後改善ノ狀況	三、八五二	四、〇二四	三、九七八
アル者	三、八五二	四、〇二四	三、九七八
ナキ者	六、一四八	五、九八六	六、〇二二

監獄費收支統計表

歳入經常部 第三款第三項三十五年度 其總額ハ係長等ノ報告ニ據リ  
 囚徒工鏡及製作收入ハ百四十二萬六千圓餘 給食費ハ百餘萬圓ニ達ス  
 經常歲出部 司法省所管三十五年度 其總額ハ係長等ノ報告ニ據リ  
 第三款集治監 八十二萬五千圓餘  
 第四款地方監獄 四百七十九萬四千圓餘

### 第四項 財務行政費

本經費ハ主トシテ財務行政ヲ取扱フ大藏省ノ經費ニシテ大藏ノ本省費國債稅關內國稅國庫金等ニ關スル行政費トシテ其他各省官衙ニ於テ會計事務ヲ行フ經費モ亦本項ノ下ニ屬スヘキモノナレドモ其經費ノ分界ヲ定ムルコト甚タ難シトス

### 第五項 內務行政費

#### 第一目 警察行政費

警察ノ分類ハ其觀念ノ異ナルニ隨テ行政法上學說區區ニ分レ最モ困難ナル問題ニ屬セリ或ハ其利害ノ關係スル所ヨリ國ノ警察トシテ地方ノ警察トシテ分ツコトアリ此分類ハ國家財政ト地方財政トノ上ニ於テ趣味多キ問題ナリト雖モ我國ノ如キハ二者ノ別ナク皆國家ノ機關ニカ執行ニ當リ地方團體ハ單ニ其費用ノ一部ヲ負擔スルニ過キサルヲ以テ今後地方分權ノ趨勢ニ伴ヒテ地方警察ノ委任

ト相待テ之カ研究ニ必要ヲ増テ至ルヘシ蓋シ警察行政費百六十萬圓小其他警察ノ分類キ付テハ司法警察ト行政警察トニ分ツコトアリ保安警察ト行政警察トニ分ツコトアリ消防警察ト制壓警察トニ分ツコトアリ高等警察ト通常警察トニ分ツコトアリ而シテ此等ノ分類ニ通シテ特ニ警察費トシテ他ノ經費ト其間ニ劃然タル限界ヲ立ツルコトヲ得ルハ保安警察費ナリ換言スレバ所謂警察費ナルモノハ保安警察費及ヒ其執行機關ノ組織執行官吏ノ監督費ヲ指スニ外ナラズルモノナリ保安警察ハ國家人民一般ノ關係ヲ保持スル目的ト爲シ其モハ自體ハ國家行政ノ一部ヲ爲セルニ拘ハラズ行政警察ニ至リテハ國家カ各種ノ行政事務ノ目的ヲ達スルカ爲メ命令強制ヲ爲スモノニシテ所謂助長事務ト相待テ行ハルモノヲ以テ其警察費ハ到底之ヲ算出シ得ヘキ限ニ非ズルナリ隨テ行政警察ニ至リテハ其事務ノ所屬ニ從ヒ又各省廳ニ分屬スルモノナリトス

第一司法警察ニ犯罪ヲ證據犯人ノ捜査其他公訴ヲ提起及ヒ實行ノ資料ヲ供スルヲ目的トスルモノニシテ司法警察訓則第一條明カニ保安警察ニ別モ其目的ハ主トシテ刑事訴訟法及ヒ監獄則ノ適用ニ在ルヲ以テ殊ニ司法警察ト稱シ其警察權ハ司法大臣ノ統轄ニ屬シ其費用ハ又司法行政費ニ屬スルコトヲ例ト爲セリ第二軍事ノ警察事務ニ付テハ特ニ憲兵ノ制ヲ設ケテリ憲兵ハ主トシテ軍事警察ヲ掌リ又行政警察及ヒ司法警察ヲ兼掌ス其職務ノ種類ト執行ノ地域ニ依テ陸海軍司法内務ノ各大臣及ヒ臺灣總督ノ指揮ヲ受ケ陸軍大臣ノ管轄ニ屬セリ隨テ其經費モ亦陸軍省ノ所管ニ屬シ明治三十五年度豫算ノ憲兵費百六萬餘圓ナリ明治三十一年十一月勅令第三百三十七號憲兵條例參照費ニ保安警察費ハ即テ純然タル警察費ニシテ内務省ノ所管ニ屬スルモノハ第一地方稅中警察費及ヒ警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金第二特定セル地方ノ警察費第三警察官吏又ハ之ニ準スル準備内外國人ノ諸給與第四警廳廳ノ廳費ニヒテ明治二十年八月勅令第六十一號參照明治三十五年度豫算ニ依リテ北海道警察費連帶支辨金五萬九千餘圓地方警察費連帶支辨金百六十萬餘圓小

報 載

○數箇ノ私印盗用ハ同一罪ト數罪トノ區別ノ標準ヲ立ツルコトハ頗ル困難ナル事ニ屬シ單純ニ論シ去ルコト能ハス此點ニ關スル我大審院ノ判決理由ノ要旨ハ嘗テ紹介シタル所ナルカ(第七號、第十三號雜報欄)今茲ニ紹介セントスル所ノモノハ七八ノ捺印アル白紙委任狀ヲ不正ニ使用シタル事件ニシテ最近ノ判決ニ屬シ且説明ノ最モ綿密丁寧ナルモノナリ曰ク「原院カ第二ノ私印盗用ノ所爲トシテ認メタル事實ハ被告等カ浦部寅吉外六名ノ押印アル一通ノ白紙委任狀ニ虛偽ノ事項ヲ記入シ明治三十四年一月九日某公證人役場ニ於テ公正證書作成ノ用ニ供シタリト云フニ在リ而シテ上告論旨ハ此押印ヲ不正ニ使用シタル所爲ニ付テハ一印毎ニ一箇ノ私印盗用罪ヲ構成スヘキモノトシ原院モ亦之ヲ七箇ノ犯罪ナリト斷定セリト云フニ在ルヲ以テ右ハ一罪ナルヲ將テ七罪ナルヤヲ論定セサル可ク抑モ意思所爲及ヒ效果ノ單一ナル場合ニ於テ即チ單一ニ罪ヲ爲スニ過キヌ本件ニ付テハ意思及ヒ所爲各單一ナルコトハ蓋



モ疑ナキ所ナルヲ以テ唯其問題ハ效果ノ單一ナルヲ否キニ在リ凡ソ人ノ生命若クハ名譽ノ如キ各人ニ附著シ自他互ニ集合シ難キモノニ付テハ各人ニ對シテ之ヲ損傷スル毎ニ各異別ノ效果ヲ生スヘシト雖モ集合シテ一團トナリタルモノヲ竊取シタル場合ノ如キハ其效果ハ常ニ之ヲ單一ナリトスルヲ適當ナリトス例ハ質屋ノ倉庫内ニ於ケル質物ノ如キハ其種類ノ相同シカラサルノミナラス各其所有者ヲ異ニスルコトアリト雖モ其質物ハ相集合シタルモノナルヲ以テ所謂意思及ヒ所爲ノ單一ナル場合ニ於テハ其竊取シタル物カ二箇以上ナルモ其效果ハ單一團ノ財產ヲ損傷シタルニ過キス從テ各物若クハ各所有者ニ對シテ別罪ヲ構成スヘキモノニ非タルカ如シ但集合シ得ヘキモノト雖モ之ヲ損傷シタル場合ニ於テ法律ノ制裁ヲ異ニスルモノニ付テハ其效果ヲ單一ナリト謂フヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ法律上現ニ其效果ヲ異ニスルモノト認メタルモノナルヲ以テナリ例ハ毀棄文書罪ニ在テハ官物ト私物トニ付キ其制裁ヲ異ニスル場合ノ如シ本件ハ所謂一通ノ委任狀ニ押捺シアル七箇印影ヲ同時同所ニ於テ不正ニ使用シタルモノナレハ則チ集合シタル七箇ノ印影ニ

對スル所爲ニシテ且其印ハ何レモ同一制裁ニ屬スル私印ナルヲ以テ前顯竊盜ノ例ニ異ナルコトナシ故ニ右ハ全ク一箇ノ私印盜用罪ニシテ原院亦蓋シ之ヲ一罪ト認メタルモノナリ云云ト(大審院明治三十五年(刑)第三七三號取印盜用私事部立告)法學志林第十七號法政新誌第四十七八號刑法新論第三版第六六六頁以下參觀)  
○宜誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メニ訊問スルコトヲ得ル者ノ供述ノ效力  
ニ付テハ我大審院ハ常ニ判事ノ自由心證ニ委スヘキモノトスルモノノ如シ今左ニ其判例ヲ示サンニ曰ク民事訴訟法第三百十條ニ依レハ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ト雖モ宜誓ヲ爲サシメス參考ノ爲メニ訊問ヲ爲スコトヲ得ル旨ノ規定アリテ保證人ノ如キハ此規定中ニ包含セラル又同法第二百十七條ニ依レハ當事者ノ提出シタル證據ハ民法又ハ民事訴訟法ノ規定ニ反セザル限りハ裁判官ノ心證判斷ヲ以テ之ヲ採用スルコトヲ得ルモノトナリ而シテ右ノ如ク宜誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メニ訊問シタル證人ノ供述ハ法律上別ニ之ヲ採用スルコトノ禁止ナキガ故ニ其採否ハ場合ノ如何ヲ問ハス全ク原院



ノ自由裁量ニ屬ス(大審院明治三十四年(一)第五百六十八號地所登記取消)民事訴訟法ノ規定ニ據レハ當事者ノ親族ハ證言ヲ拒絕スルコトヲ得ヘク又當事者ノ一方ハ相手方ノ證人カ其親族ナル場合ニ於テ之ヲ忌避スルコトヲ得ルノミニテ當事者ノ親族ヲ根元證人タル資格ナシト爲シタルニアラス故ニ證人カ證言拒絕ノ權利アリテ之ヲ行使セス相手方モ亦之ヲ忌避セサル場合ニ於テハ當事者ノ親族ト雖モ純然タル證人ナリトス然レハ其證言ハ事實裁判官ノ自由ナル心證判斷ニ依テ之ヲ取捨スヘク親族ノ證言ナリトテ其供述ノ眞實ナルヤ否ヤヲ考覈セス親族タルヲ唯一ノ理由トシテ之ヲ排斥スルハ違法タルヲ免レス(同院明治三十四年(一)第五百二十號上地所有權登記書)第十號雜報欄參觀

○校友會東京支部臨時總會 本月十八日本校第三講堂ニ於テ本校校友會東京支部臨時總會ヲ開キ校友會本部評議員選出ニ關スル事項ヲ議シ了リテ第二講堂ニ於テ懇親會ヲ開キ席上各辯士指名演說アリテ歡聲湧クカ如ク非常ナル盛會ナリキ向ホ本校講師ニシテ出席セラレタルハ梅博士飯田學士秋山學士吉原學士田中博士遠藤學士矢作學士等ナリキ

# 法學志林

每月一回十五日發行○定價一冊金十錢郵稅一錢  
 校友、生徒、校外生ニ限り特價一冊金八錢郵稅一錢  
 十冊前金七十錢郵稅十錢

## 第三十一號 五月十五日發行

**志林**  
 ○共有物ノ競賣ニ關スル判例ヲ讀ム 法學博士 梅高 謙次郎  
 ○殺捕中立船舶ノ船長 法學博士 富井 政章  
 ○法人ノ本性 法學博士 富井 政章  
 ○社會主義ノ三大流派(二) 友一 柳 貞吉  
 ○月主カ家族ノ後見人トナルハ 果シテ戸主權ノ效力ナル乎

**寄書**  
 ○法曹雜話 友一 柳 貞吉

**散錄**  
 ○法人ト代知行爲 法學士 若 觀  
 ○支拂命令ノ送達ニ因ル權利拘束ノ消滅 法學士 遠 藤  
 ○後見人ノ爲シタル法律行爲ト親族會ノ同意 法學士 鶴 下  
 ○失踪宣告ノ取消ト戸主權及ト夫權ノ回復 法學士 鶴 下  
 ○小切手ニ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記入シタル效力 法學士 富 田  
 ○被控訴人ノ民事訴訟法第九十 六條第三號ニ依ル賠償請求方法 法學士 岩 田

**解疑**  
 ○大審院新判決例三十九件

**判例**  
 ○不起訴ノ弊○原告ト被告ノ間違○不都合ノ二幅對○詐欺休止ノ失敗○建物初代  
 ○年勤○特許局組織改善ノ建議○法ヲ濫ルノ妙計○欠伸ノ官吏侮辱  
 ○本校維持員ノ選定○五大法律學校聯合總會大討論會○狩野氏ノ送別會○講談會  
 ○校友異議

**發行所** 東京市麹町區富士見町六丁目 司法省指定 和佛法律學校  
 (電話番町一七四) 文部省認定

校外生規則摘要

一 講義録ヲ分テ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

一 講義録ノ掲載科目左ノ如シ

- 第一學年 法律通論、民法第一編及第二編第六章マテ、刑法(總論)、憲法、國際公法、經濟學
- 第二學年 民法第三編、商法第一編、第二編、第三編、刑法各論、民事訴訟法(第一編、第二編)、刑事訴訟法、政學
- 第三學年 民法(第一編第七卷以下、四編第五編、商法(第四編第五編)、民事訴訟法(第三編以下)、國際私法、國際私法

一 講義録ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

- 第一學年 五月二十日 第二學年 十月廿五日
- 第三學年 十五日 三十日但二月三限リ末日

一 校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一 月謝金左ノ如シ

- 第一學年 金三十圓 第二學年 金四十圓
- 第三學年 金五十圓 全學年 金一圓

一 月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早達便ヲ以テ東京市麴町區富士見町六丁目十六番地和佛法律學校會計局宛ニテ送付スルシ

明治二十二年十二月九日內務省許可  
明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可

明治三十五年五月二十四日印刷  
明治三十五年五月二十五日發行 (定價金貳拾五錢)

編輯者 東京市牛込區東横町十七番地

發行所 板田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地

印刷者 小宮山信好

東京市芝區西久保明光町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指定 (電話番町百七十四番)